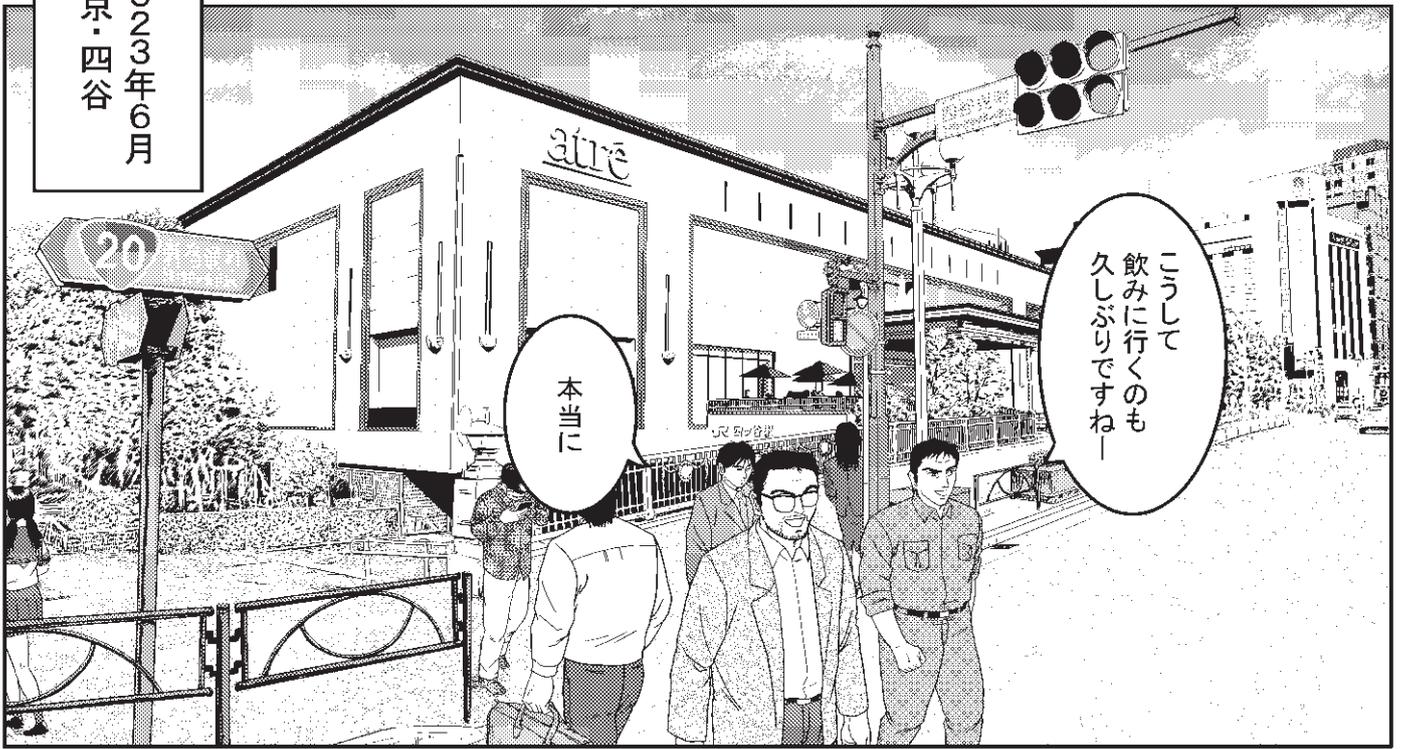


ほいすふるむ  
ふくしま

VOICE FROM FUKUSHIMA  
2023



2023年6月  
東京・四谷



私の名前は竜田一人  
福島第一原発で事故後に  
働いた経験を漫画に  
描かせていただいています

最近なかなか  
福島にも  
行けてなくて

この先にいいお店が

楽しみー！



だから今日は  
東京で福島を  
味わおうってことで

こちらは開沼博  
東京大学准教授  
福島第一  
廃炉国際フォーラム  
総合プロデューサー





いらっしゃいませー

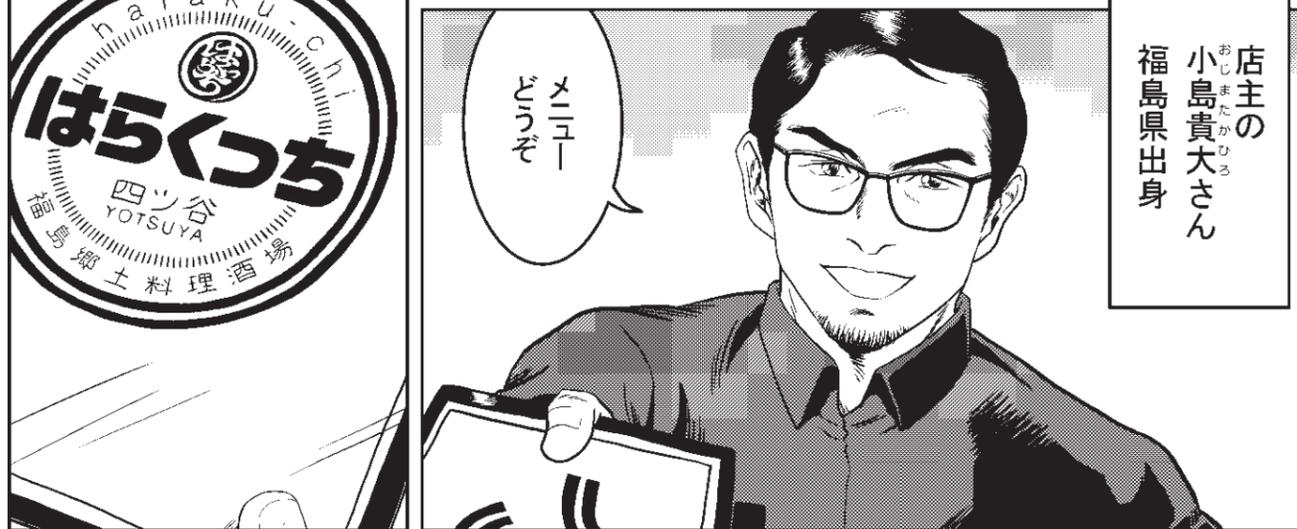
いらっしゃいませ



ようこそ  
開沼さん

いっぞやは  
どうも

ちなみに  
『はらくっち』とは  
福島の方言で  
「お腹いっぱい」  
という意味です



店主の  
小島貴大さん  
福島県出身

メニュー  
どうぞ

福島第一廃炉と  
未来について語り合う

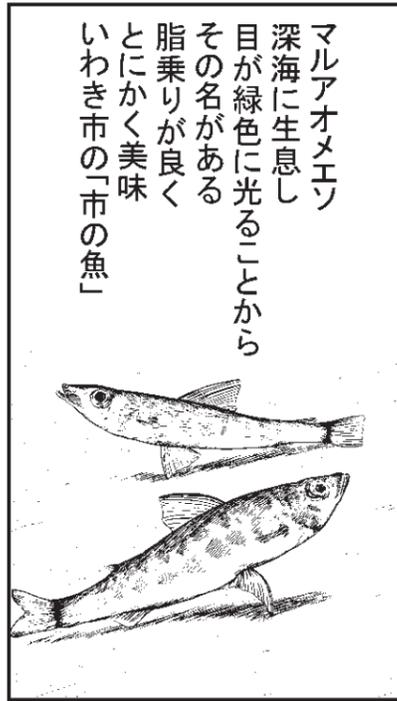
# 1FD7

第7回福島第一廃炉国際フォーラム

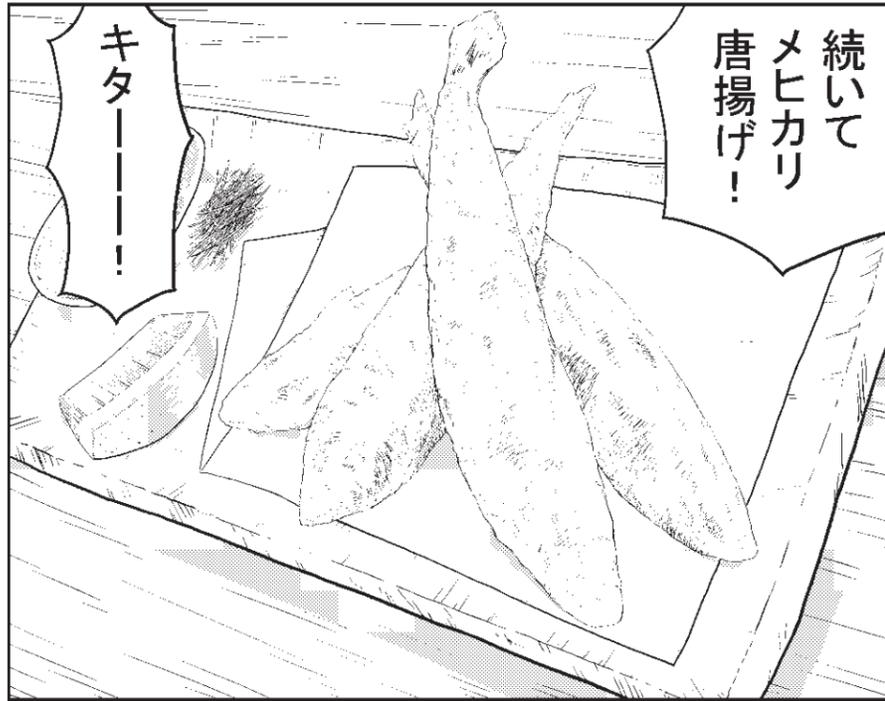


こちらです

おー  
『はらくっち』ですか



マルアオメエツ  
 深海に生息し  
 目が緑色に光る「とから」  
 その名がある  
 脂乗りが良く  
 とにかく美味  
 いわき市の「市の魚」



続いて  
 メヒカリ  
 唐揚げ！

キタ——！！



現時点では  
 なんと！  
 廃炉フォーラムの  
 頃には放出  
 始まってますかね？



いわきの魚といえば  
 やっぱり話題としては

処理水  
 ですか



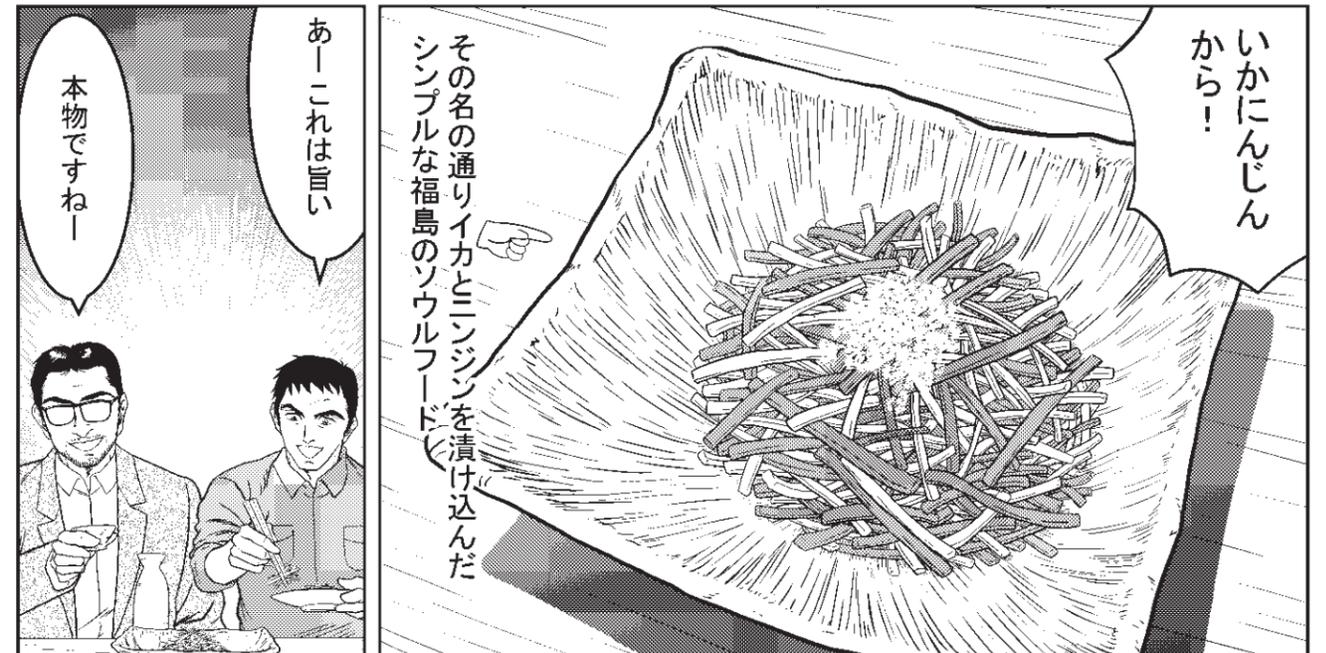
いやー何から  
 行きましょう

そうですねー  
 まずは…



おおー  
 福島料理  
 だらけ

お酒も  
 福島の蔵の  
 ものばかり  
 ですよ



いかにんじん  
 から！

その名の通りイカとニンジン  
 を漬け込んだ  
 シンプルな福島のソウルフー  
 ド

あーこれはい

本物ですねー



2023年6月  
 ALPS処理水希釈放出用の  
 海底トンネル工事が完了

規制当局の検査を通過

トンネル検査の様子



こちらの  
 食材は全部  
 福島から？

基本的には  
 まあ時期とかあるんで  
 全部が全部とは  
 行きませんが

この野菜も  
 直接農家さんや  
 卸業者さんから  
 「入ったよ」って  
 連絡貰って

福島野菜のサラダ

第一原発の港湾内側で調査のために捕獲したものでこの海域で捕獲した魚が市場に出荷されることはありません

焦点は風評被害が起きるかどうかですが  
俺は心配無用ってずっと言ってきましたけどねー

私はやっぱりちょっと危惧があって  
処理水に害がないとは言っても一般の方も何が起るかわかる必要があるんですよ

例えば第一原発の港湾内で捕れたクロソイから基準値オーバーの個体が出たりして  
それがそのまま市場に出荷されると思ってる人だっけいたりするんですから

そうか...  
まだそんなもんかー  
情報発信が届いてない状況は確かにまだありますねー

商売やってらっしゃる方は風評には警戒心根強いですよ  
実家が伊達の桃農家なものでそりゃ事故からしばらくは酷いもんでしたから

2013年頃にはリヤカーに桃積んで売り歩いたりしてたんで  
勿論喜んで買ってくれる人もいたんですが  
「持って来んな」なんて言われたことも...  
マジっすかそんなことが  
だから今も東京で福島のこと知ってもらえるようにこの店でも色々

ハイ!  
常磐もの  
ヒラメ刺身!  
ひよー!  
これもいいのが入ると魚屋さんが連絡くれるんです

ヒラメといえば海水で希釈したALPS処理水で飼育してますね  
ヒラメもアワビも通常の海水と同じように育ってるよ  
刺身といえばこれもどろぞ  
わー!  
馬刺し!!  
会津のですか  
勿論



伊達鶏肉団子入りつけ汁



今年の廃炉国際フォーラムも 参加者の皆さん大満足の 盛会となりますよう 祈念しております

## はじめに



原発事故当初、12の市町村が、その全域か一部に避難指示がかかる対象になっていました。それから11年ほどの時間をかけて除染が行われ、産業や生活インフラが復旧し、多くの自治体に住民の暮らしが戻ってきた中で、最後まで全域がその対象となっていたのが双葉町です。双葉町にはすでに役場機能の一部が戻り、産業交流センターや東日本大震災・原子力災害伝承館、新たな企業も立地してきていますが、ようやくここに腰を据えて生活をする住民が戻ってきました。いまはそれからちょうど一年ほどの時間がながれたところです。この会場に来られた方は、一年たってみて、まだ残る課題とこれから動きが有りそうな部分とを実感していただけだと思います。

私は、昨夏の双葉町の避難指示解除のタイミングには、双葉駅前で行われていたセシモニターの場にいきました。10名以上の学生たちと帰還困難区域を抱える自治体のまちづくりについて考えるべく、繰り返し東京からフィールドワークに通っている日程にちよつとこの日が重なったからです。ほとんどの学生たちは、これまで全く福島に来たことがないと言い、そのだからこそ、いま、福島の実情を知り、地域の人、行政や事業を営む人たちの話を聞きたいと参加していました。彼らがその場で配られた新聞を手に集まっていると、「若者が集まっている」とテレビカメラがその姿を撮影し、全国向けニュースの中に、地域住民の方々とともに報じられました。

いま、この地域には、元々ここに住んでいた方々はもちろんのこと、様々な人が出入りし、その歴史を構築しはじめています。この福島第一廃炉国際フォーラムもまた、その一端を担う貴重な場です。

廃炉の先行きがまだ長く見える中では、まだまだ多くの人を巻き込みながら、対話を継続していく必要があります。これまで積み上げてきた対話がその礎となり、当初は手の施しようがないように見えた問題も少しずつ解決に向かって動き出してきたことも事実です。この双葉町でそれぞれが未来を思い描く時間を共有できればと思っております。

総合プロデューサー・開沼 博

# ほいすふるむ ふくしま

VOICE FROM FUKUSHIMA  
2023

## CONTENTS

|   |    |
|---|----|
| 巻頭マンガ 作・竜田一人                                | 1  |
| はじめに  | 9  |
| CONTENTS                                    | 11 |
| 福島第一廃炉国際フォーラム これまでといま                       | 12 |
| 前回の福島第一廃炉国際フォーラム                            | 14 |
| 今回の福島第一廃炉国際フォーラムの流れ                         | 18 |
| 廃炉について私たちが知りたいこと、話し合いたいこと                   | 20 |
| 「廃炉の対話」の記録                                  | 22 |
| 廃炉の対話                                       | 24 |
| 学生セッション「～学生と考える～未来ワークショップ」                  | 80 |
| 国際メンタリングワークショップ「Joshikai in Fukushima 2023」 | 88 |
| 終わりに  | 90 |

福島第一廃炉国際フォーラムとは？

今回で7回目の開催となる福島第一廃炉国際フォーラム。第2回から原発事故の影響の大きさも大きかったエリアである双葉郡のうちで沿岸部にある6つの自治体(広野町・楡葉町・富岡町・浪江町・大熊町・双葉町)をまわり、廃炉についての対話を繰り返してきました。

この福島第一廃炉国際フォーラムの特徴は、地域住民の皆様との対話を、一度のイベントのみで「やったこと」にするのではなく、年間を通してワークショップ形式で継続的に行ってきたことにあります。

ワークショップ形式の対話の場には、職業世代、居住地等にあえて多様性をもたせ、各地で様々に活躍されている方にご参加いただきました。70代・80代も、高校生・大学生も参加してきました。廃炉への関心も知識も濃淡がありました。

その対話の蓄積は、この「ほいすふるむくしま」に記録されています。今回の2023年度版で6冊目になり、全てオンラインでもいつでも読めるように公開されています。

「いかなるテーマでもこれは話してはだめとい

うことはない。不安・不満・疑問、なんでもぶつけてください」という前提で、参加者と原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF)、東京電力、経済産業省の担当者が行った対話を重ね、それを記録・公開し、また、それをもとに締めくくりのフォーラムを開催する。フォーラムでの議論の内容は、グラ



フィックレコーディングでより多くの人が把握しやすい形で記録し、それも公開し、さらに次年度以降の議論につなげていく。この対話の継続と、透明性の確保がこのフォーラムの核心にあります。

2020年以降の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の蔓延の中で、対話をするこ、フォーラムを開くこと自体が難しい時期もありましたが、その中でも形式を工夫しながら対話を継続してきました。2020年以前は、福島第一廃炉国際フォーラムに参加頂いた皆様に、観客席に座りながらも、地域外から来た専門家も地域住民も分け隔てなく対話する機会を用意してきました。そこに制限がかかって現在まで来てしまったことは残念なことではありますが、一方で、オンライン会議システムを利用することでより多様な形でのフォーラムやワークショップに参加する機会をつくることのできるようになってきたのも事実です。

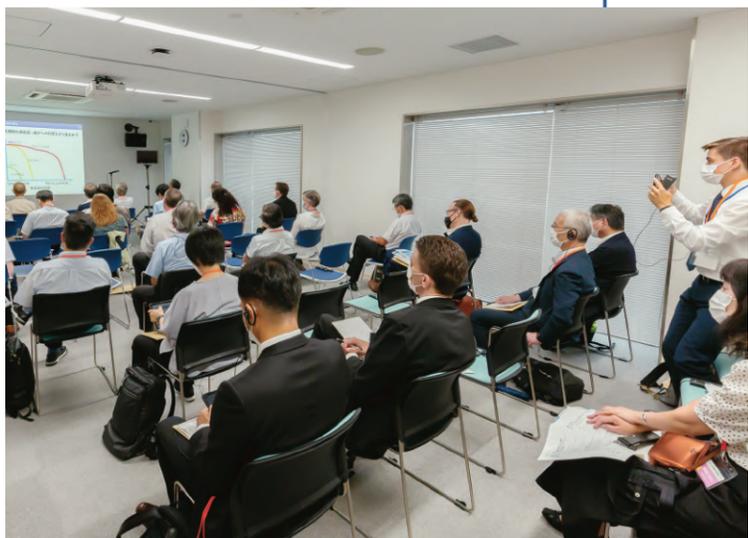
福島第一原発の廃炉はもろろんですが、その外側の状況も、対話を継続する中で様々に変化してきています。それを良い形で活かしながら、より開かれた、より進化する対話の場をつくっていく必要があります。

そもそも誰がなんのために？

福島第一廃炉国際フォーラムはNDFが主催してきました。そもそも、なぜこの福島第一廃炉国際フォーラムが、特に地域住民とNDFや東京電力、経済産業省、さらには国際機関等の専門家との対話の場が開かれてきたのでしょうか。

この問いには、色々な答え方ができますが、一番のポイントは地域の関与と事実の共有なくして廃炉は進まないし、一方で、地域にとっても廃炉はデメリットにもメリットにもなる、それ故、意見を言うべき存在であるという点にあります。

例えば、福島第一原発では、現在4000人近くの人が毎日働いています。これは一つの自治体が成立するのに十分な「人口規模」です。それだけの雇用が生まれ、人が行きかい、しかも、それがすぐに終わるわけではない。廃炉が地域に経済的社会的な波及効果をもたらしてきたし、今後も一定期間その前提があるというところは、この地域にとつての貴重な経済・社会資源です。一方で、処理水処分、燃料デブリ取り出し、その他膨大な放射性廃棄物の処理などは、風評等に直結し、地域にとつては負担となり得るものでもあります。であれば、常にその動向を把握しながら疑問があれば投げかけていく必要があります。



原発事故の原因企業としてその廃炉の責任を持つ東京電力、それを監督する経済産業省、そして、長い時間軸で安定的に廃炉が進むように支えるNDF。この3者が集い、廃炉とはそもそも何か、現状はどうなっているのか、今後の見通しは…といったことを根本から、誰にでも開かれた場で継続的にコミュニケーションする機会はなかなかありません。この福島第一廃炉国際フォーラムはそれを実現する他には無い重要な場であり、同時に、地域住民の皆様をはじめとする様々な立場の方々と長い時間をかけた対話の蓄積も他にはない価値をもっています。

いかなる対話がされてきたのか？

これまでいかなる対話がなされてきたのか。その記録は福島第一廃炉国際フォーラムのウェブサイトでそこにもある過去5冊の「ほいすふるむくしま」にありますので、ぜひご覧いただければと思います。

当初、よく出てきたテーマは、情報発信の不足や放射性物質の漏れへの懸念、働く人々の安全管理や人材育成に対する問題などでした。一方、時間の経過とともに、処理水や燃料デブリに関する議論のように、一定の知識を持っているからこそ話ができる細かい内容や、廃炉の将来像を模索したり次世代への教育について考えたりするような、長期的な視点に立った話題が出てくるようになりました。

そのように、より広く、深い議論が、これからもより活発になされていくためには、正確な知識の共有と関心の向上が不可欠です。この福島第一廃炉国際フォーラムはそれを促す基盤となるべきであるし、これまでもその役割を一定程度果たしてきた部分もあるかもしれません。参加者の皆様には今日のフォーラムをきっかけに、更なる対話の輪の拡大にご協力にいただければと思います。





# 今回の福島第一廃炉国際フォーラムの流れ

本日の福島第一廃炉国際フォーラムDAY1「地元の皆様と考える1F廃炉」に先立ち、県内各地で地元の皆様や学生が廃炉と未来について語り合うイベントを行いました。

## 「廃炉の対話」

地元の皆様が抱えている廃炉に関する疑問や知りたいことを共有し、1F廃炉と地域の未来について語り合う場として開催しました。

2023年2～3月、6～7月、福島県内7箇所(中通り3回、浜通り4回)で開催、計50人が参加

(活動の記録・内容は24頁以降)



## イベント

### 学生セッション「未来ワークショップ」

現役の地元高校生・高専生が、自分たちが未来の双葉地域のリーダーになったと仮定して、望ましい双葉地域の未来を手練り寄せるために今何をすべきかを考えました。

地域の現状、復興への取組等を現地見学等で学習した後、統計データや双葉地域の復興や廃炉に関する客観的な情報に基づいて、『何もしなかった場合の未来予想』と『参加者が思い描く未来』の差を手掛かりに、グループで議論

を進めました。

2023年8月、福島県双葉町(双葉町産業交流センター(F・B・I・C)ほか)で開催、計15人が参加

(活動の記録・内容は80頁以降)



### 国際メンタリングワークショップ Jossikai in Fukushima 2023

将来の進路を考える時期にある女子高校生の皆さんに、国内外の理工系女性研究者・技術者等との交流を通じて、科学・工学への興味、関連する社会課題への関心を高めていただくことを目的としたワークショップを開催しました。

2023年7月、福島県富岡町(富岡文化交流センター「学びの森」)で開催、計47人(日本人生徒38人、ルーマニア人生徒9人)が参加

(活動の記録・内容は88頁以降)



## 語り合う

### 第7回福島第一廃炉国際フォーラム

#### DAY1 地元の皆様と考える1F廃炉

3つのイベントを通じて明らかになった、1F廃炉と未来についての問いを論点として、廃炉の主体を交えて語り合います。



# FUKUSHIMA Q 廃炉について 私たちが知りたいこと 話し合いたいこと

## ALPS処理水の海洋放出

漁業者や農家の方との対話は？ どのような意見や話があった？

タンクを東京電力の敷地外で増やせないのはなぜ？

風評被害が発生した時のサポートやケアは必要

当事者意識を持って考えると、いかに福島のおいしさを伝えるかが大事

念には念を入れて。透明性、情報公開が何より大事

トリチウム以外の核種も除いていることきどの程度発信できている？

タンクが満杯になるリミットはいつ？

福島県沖での放出が前提だが、県外の人にも同じ気持ちを感じてほしい

国内はもとより、海外でどう理解してもらおうか？ これからの課題

海域モニタリングでは処理水を放出する前の調査結果をどの程度発信しているの？

## 廃炉の全体計画

廃炉計画が今どのような段階で、今後のクリアすべき課題は何？

どこまでが廃炉なの？ 廃炉ってどのような状況になること？

目標時期を遅めに設定して予定どおりと言うほうが信頼されるのでは？

## 廃棄物処分

最終処分場の方向性を早く決めて安心できるようにしてほしい

キャスクはどこで造られているの？

福島第一から出た高レベルの放射性廃棄物の処分方法はどのようになるの？

## 廃炉作業によるリスク

普通の生活で受ける線量と事故により受けている線量を同じ土俵で比較していい？

## 今後起こりうる災害への対応

廃炉作業中に地震や津波・台風等が来た際の対策は？

## 燃料デブリの取り出し

試験的な取出と中身の確認も未達成で遅れが生じている中、これからの見通しは？

ロボットの遠隔操作で燃料デブリを取り出す作業はどのぐらい年数を要するの？

燃料デブリ取出し 2031年としている根拠が見えない。信じていいの？

## 廃炉の実施体制

作業をしているのは東京電力の社員？ 地元の企業？

廃炉をやり切るのは当然として、働いている人が誇りを持っているビジョンがあると良い

## 廃炉後

原子力災害の悲惨さを伝え世界中の人が訪れる場所として残すべき

廃炉の後、東京電力や地域の関連企業が撤退することはあるの？

廃炉後の町の計画は？

## 信頼の醸成

結局は説明している人が信じられるかどうかが決定的な部分

意見を聞いたり出したりして対話を積み重ねるということは非常に重要

東電の人には町の人たちと一緒に何かを作ったり、子供たちにもいろいろ教えたりしてほしい

社員一人一人は良い人なのに東京電力という集団になると信じられなくなるのはなぜ？

地元のコミュニティ団体のイベントに東京電力が参加して会話をしてみてもいい？

東京電力では住民側からどのような信頼や支援を得たいと考えているのか

人と人同士、企業同士の関係など、お互いに信頼関係がなければ廃炉も成り立たない

廃炉を抜かずに話ができる機会が増えたらもっと楽しく暮らしていけるのでは？

## 教育

原子力、エネルギーについて特定の方向に誘導しない教育を行ってほしい

放射線リテラシーを身に付ける教育をやろうという努力は続けてほしい

電気の必要性を子供たちに教えてほしい

自分の頭でリスクを考えて発言できる教育がこの地域では必要

何を学ぶのかについて子供たちが主体的に関わるべき

## 情報発信

多くの人に情報を届ける工夫が必要 (ライブ配信、インフルエンサー活用など)

国からの説明に対して、未だに反対とか風評だとか言っている地元の人もある

事故を経験した地域住民の方と全国の人たちとは伝え方は違うと思う

廃炉における課題を定期的に発信する場はあるの？

中通りにいて、どこか遠い事になっていて、いま一つ自分事に感じ取れていない

消費地である東京の人に自分ごととして考えてもらわないと廃炉は成り立たない

政府の説明は一方的で会話になっていないけど一歩踏み出してほしい

大臣といった国のトップはどう考えているの？

海外への説明の対応と国内への対応の乖離について早急な対応策が必要

ニュースでは福島第一ばかりで福島第二がどうなっているのかわからない

大学生などの若者への情報発信は県内に限定せずに全国に広げてほしい

## 廃炉の対話

対話が、どこを到達点か、どういう状況を解消したいのかが疑問。

参加者でも廃炉に興味を持っているのは少ないのでは？

今後どのように進めていくの？ (参加者の選定や対話の検証など)

## 地域経済・復興

長い廃炉作業の中で東京電力には地域と一緒に復興を進めてほしい

「廃炉産業」という呼び方は前向きな印象が良い

友達、先輩が現場で勤務しているのでも今後も廃炉を応援していきたい

福島第一、廃炉の仕事への参画はルールの厳しさがネックになっている

東電社員、国の職員が家族を連れて住めるような環境づくりをしてほしい

廃炉の大きな仕事を細かくして地元の企業に回るスキームを作ってほしい

町民が少ないので東電社員に地域活動に参加して盛り上げてほしい

## 風評被害

福島の人々が寄り添って支えあっていることが発信できれば良いのでは？

生産者の話を聞きながら美味しいトウモロコシをかじったら風評被害はなくなると思う



**大熊 (双葉郡)** 7月2日 (日)  
linkる大熊




**郡山** 6月22日 (木)  
ビッグパレットふくしま




**いわき** 3月15日 (水)  
内郷コミュニティセンター





**双葉町** 7月14日 (金)  
双葉町役場




**福島大学** 6月30日 (金)  
福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ




**福島** 6月21日 (水)  
福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ




**南相馬** 2月24日 (金)  
かしま交流センター








何か伝えていただくべきなのではないかなとは感じています。

◆ファシリテーター ありがとうございます。東電もまさに「安全です」と言い続けた12年で、そういうじゃない情報も当然あると思えますけど、いかがでしょうか。

●東京電力 1つ前の「結局安全なの？」へのお答えになりますが、廃炉の中でリスクを取り除くあるいは回避するというところに注力しています。作業員の方々の安全が第一ですし、その前に地域の方々の帰還や新しく移住する方々のご心配にも対応するために取り組んでおります。

●東京電力 廃炉では作業員の安全の確保や環境影響を出さないことがマストとなりますが、それでもリスクはゼロではないと思っています。原子炉には燃料デブリが未だ存在しており、瓦礫なども全部取り終えたわけではないからです。どれだけリスクを下げられるかということで、未だにある危険性に対してどう取り組んでいくのかを道筋立てて皆さんに分かりやすく説明していくことが我々の責務だと思っています。

◆ファシリテーター 「安全」以外は経産省が担ってきたところかと思いますが、いかがでしょうか。

●経済産業省 安全安心に関して言いますと、事故前までは原子力安全・保安院が経済産業省の中でありましたが、原子力を推進する側と規制する側が同じ組織にあるというのは良くないということで、原子力安全・保安院はなくなり、新たに原子力規制庁と原子力規制委員会が設置され、独立して福島第一を含めて原子力発電所の安全を判断しています。経産省としては、原子力規制庁にきちんと判断してもらうことだと思っており、東京電力、メーカー、

会津の方々との継続的なお話をするものですが、それで終わらず、日本全国あるいは世界の方々とも情報を共有することに努力して参ります。

◆ファシリテーター 世代による認識の差みたいなお話も出ています。中学生でも、中学1、2年生くらいだと震災の記憶は無いと思いますので、そのような中で廃炉になんて興味を持ちにくいし、技術的な話は多分難しいというのが子供の感覚だと思っています。「子供が学ぶ機会はあるの?」「子供たちへの教育は?」と付箋に書かれていたのはごなたでしょうか。

■参加者 私です。川内村で古民家を活用してカフェを始めようとしている者です。地元出身者として、私自身が原発の安全神話の下に育てられたという印象がすごくあります。例えば書き初めて学校か

国内外の研究者を含めて技術開発のサポートや指導をやっていかなければならないと思っております。

ご指摘のように、安全は廃炉を進める上での大前提であり、その上で安心していただくための情報提供やコミュニケーションをしっかりやる必要があると思います。また、福島第一の中で働いている方々の7割は福島の方々であり、地域の皆様に支えていただきながら廃炉を進めているところです。

◆ファシリテーター 今のお話と関連してどうでしょうか。関連していませんけれども良いですが。

■参加者 今回は技術的な意見・質問が少ないというお話ですが、技術面で関心を持っている方の参加が少ないのかなと思えました。今回の参加者の選定を含めて、廃炉の対話の今後の在り方や進め方についてお考えを教えてくださいたいと思います。

●NDF 私たちとしては、地元の皆様との繋がりを小さな接点から始めて、徐々に開拓していきたいと思っています。今回は過去に参加経験のある方々に参加をお願いしたのは、前回参加した後での感想をお聞きしたいこともあり、今回新たに参加いただいた若い方々の考えもお聞きしたいということで、本日の参加者になりました。この事業は浜通り、中通り、



ら出た冬休みの宿題はなぜか「原子力の日」でした。事故後も原発を見学し、ボトルに入った処理水を見せていただきました。安全に処理されて、排出しても大丈夫というのは納得しましたが、最後に処理水と一緒に「記念写真を撮りましょう」と言われたことには理解に苦しみました。正直に言えば、原発の事故のために私たちは家を追われたのに、何で一緒に写真を撮らなきゃいけないのだと怒りを覚えました。「原子力の日」という書き初めを書かされた時から何も変わっていないと思いました。なので、ある方向に誘導しない教育を行っていただきたいと思いました。

◆ファシリテーター 学校での教育に関するところですが、経産省からいかがでしょうか。

●経済産業省 教育という観点では、「廃炉の大切な話」という冊子を作成して配布しており、全国の図書館にも入れさせてもらっています。一方で、教育の話も含めてどのようにお伝えしていくのかについては私たちも悩みながら進めており、学校にお聞きしながら、職員による出前授業の形で実施しております。

◆ファシリテーター 教育に関する取り組みを実施されている参加者の方、関連してどうでしょうか。

■参加者 浪江町を拠点に中高生向けの英語キャンプや異文化交流のプログラムをやっております。教育ということ言えば、知識として教えるよりも、ちゃんと自分の頭で考えられる力を伸ばすのが本質なのかなと思っています。自分の頭でリスクを考えて、おかしいものはおかしいと思って発言できる教育がこの地域では必要なんじゃないかなと思っています。聞いてみたいことなのですが、風評というのは概念も基準も曖昧かなと思っています。その判

断や対策について関心があります。

◆**ファシリテーター** 処理水や賠償もタイムリーなお話です。いかがでしょうか。

●**東京電力** 処理水の放出による風評がどういう形で出るのが想定できないため、全国と比べてその地域がどうなのかといったことを考えており、今のところ県レベルでどうかということでご説明に回っております。処理水に関わる場所では海に面している浜通り地域への影響は想像できませんが、観光の規模が大きい会津への影響が少なければ、福島県全体で均すともあまり風評は出ていないということも考えられます。そのようにならないように、まずは県全体を見て、次に個別の状況を見て、細かくご相談していくことを考えております。

●**東京電力** 子供が学ぶ機会に関しては、震災前にエネルギー教育という観点で学校への出前教室をやっていました。それが間違った形で「原子力の国」という書き初めになっていたとしたら、本当に申し



訳ないと思っています。記念写真の件も不快に思われる方がいらっしゃると思いますので、言い方を改めたいと思います。

お子さんが学ぶ機会については、高校生以上の方はご希望があれば保護者の方の同意を得て福島第一の現場に入ることができま

すし、科学的に興味があっても自ら来たいといった生徒さんたちもいます。また、廃炉創造ロボコンと言って、福島高専が中心になって全国の高専に呼びかけてロボットのコンテストも実施されています。風評被害に関して言えば、その手前です。ALPSによって安全な状態まで処理し、放出する前にも徹底的に確認・検査すること、放出後も徹底的に海洋モニタリングをすることが大前提になります。それでもなお風評被害が出てしまった場合には、賠償ということでお応えするということになります。業態ごとにご意見を聞き、賠償の大まかな枠組みを作って今年1月末に公表したところですが、まだまだ不十分なところがありますので、引き続きお話を聞きながら制度を作っていきます。

■**参加者** 富岡町を拠点として、花からお酒を造るといふ事業をやっている者です。家業として中通りで花を扱った事業を行っており、賠償について父親や祖父が話をするのを横で聞いていた覚えがあります。東電から「もう影響はありませんので、お金は払いません」という感じで賠償の話は終わります。

した。当時、結局は人と人の繋がりがなくなって、お金で人と繋がっているだけなのかなと思いました。今日の対話では、いわゆる一般の方が地域に対して何ができるのかということが求められているようですが、今後関わる機会はなかなかないと思うので、僕のケースで言えば、富岡町で花を一緒に植えることかなと思っています。

◆**ファシリテーター** 廃炉フォーラムというのがNDFの二つの答えなので、いろいろな形式があったところを乗り越えてきていないというご意見もあるのかなと思います。地域とのコミュニケーションはもっと密にコミュニケーションについてNDFからはどうでしょうか。

●**NDF** NDFとしては、廃炉を達成した時に40年も継続してやってきたんだねと地域の皆様から言ってもらえるのが目標だと思っています。また、一般の方からは、「あなたたちのことを見張っているからね」の一言を言ってもらえると良いと思います。「ずっと見ているからね」という一言が、私たちの良い意味での緊張になると思います。

◆**ファシリテーター** ありがとうございます。そのほかがいかがでしょうか。

■**参加者** 飯館村でホームセンター跡地を改装して環境づくりの自由研究というプロジェクトをやっています。放射線、放射能についてのある程度の知識を活かして、未来の環境づくりのためのツアーを実施しています。この取り組みを通して、中学生、高校生あるいは大人の人たちに放射線、放射能

物質について聞くと、怖い物質でよく分からない、体に影響があるものみたいに捉えていて、科学として何なのかということが全然つかめていないと感じています。その中で私たちは、放射性物質はそもそも不安定な原子という話から始まり、原子の構造は中学や高校でこのように習ったよねという話をします。すると、皆さんもひと事じゃなくて自分事になるのかなと思っています。私は付箋に「フクライナのように戦争が起きたときにどういふ対策があるのですか？」というのを書きました。戦争がいつ起きるかわからないという世の中に私たちは生きていると思って書きました。

■**参加者** 私も彼女と一緒に環境づくりのツアー事業をやっています。私は福島市出身なので原発に触れる機会は無かったため、事故が発生した時に、福島が大変なことになった、唐突過ぎて何も分からないという状況でした。今ツアー事業を通して一緒に学んでいる中で、中学校とか高校で学んだことをベースにすれば、大人になっても何となく理解できるということもあります。子供たちだけでなく、大人の方たちにも改めて知ってもらおうということも大事なのかなと思っています。

◆**ファシリテーター** 基本的な知識がないと語れないということですが、NDF、経産省から関連してどうでしょうか。

●**経済産業省** 私たちも処理水に関しては、一体どういった水なのかということから知っていただくことが一番の風評対策になっていると思います。そもそも今流そうとしている水に入っているトリチウムが一体何なのか、トリチウム以外に何か入っているのかについて、全国でCMもしております。トリチウム以外の物質はALPSですっきりと取り除き、残ったトリチウムも安全と言われ



る規制基準の40分の1より低いレベルにして流す、1年間に受ける放射線よりも桁がずっと下のレベルであるところまで説明している状況です。そういった数字に加えて、ベクレルとシーベルトといった話も含めてお伝えしていくことが本当に大切だと感じているところです。

●NDF 昨年も今回のような対話を実施し、国際フォーラムを8月に大熊町で開催しました。その際にNDFの理事長は「ALPS処理水がこれぐらい安全なのですよ」という説明を我々にはする。一方で、嫌なものは嫌なんだ、海に出してほしくないという意見があるのもまた事実なのだ」と言っていました。そこを認識した上で、廃炉をやらなければいけないのかについて、「嫌なんだ」と言っている方にも行ってお話し、ご意見を聞いて、それをまた我々の仕事に活かすことが目標になるかと思っています。

■参加者 誤解を恐れずに、僕は「風評被害はチャンス」と書きました。注目されることのメリットは大きいと思っています。例えば水産物も野菜も風評被害ということ抜きにしておいしいです。2011年に起きたことは事実として受け止めるべきだと思うので



すが、やはり大熊町、双葉町では直接的な被害を受けられた方がいらっしゃると思いますし、ここ南相馬市でも津波を受けて、放射線の影響があるということなどで自衛隊の捜査がしばらく入れない



状況がありましたので、被害を受けた方々の感情がさまざまだと私たちも心に沁みております。日常生活の上では影響がないことを感じている方は多いと思いますが、一方で逆にそのように距離が離れているからこそ意見を言える立場があるかと思えます。大熊町、双葉町が丁目番地であることは間違いないですが、広く双葉郡、それから浜通り、中通り、会津の方々に対しても真摯に対応していきたいと思えます。

◆ファシリテーター 何かこれまでの話で出ていない話題や感想でも結構ですが、いかがでしょうか。

■参加者 私は南相馬市小高区なので、津波の一部始終を見ていました。事故の翌日にもしかしたら原発が爆発するかもわからないから避難してくれと言われて転々と避難したんですよ。今は震災の語り部をいろいろなところから頼まれてやっております。伝承館にも行っております。やはりあの状況を皆さんに知ってほしいと思うので私は語り部



すけど、食べたらずごくおいしかったという体験は多分ほかの地域ではできないことであり、それを知ってもらおうという意味ではチャンスなのかなと思えました。

◆ファシリテーター そうですね。ネガティブな知名度であっても、そこから世界の人に知ってもらっている状況を活かしていく、それは廃炉の技術的なところもそうかもしれませんけどね。

■参加者 私は広野町で体験型宿泊施設に取り組みうとしていますが、この場に来て感じたのは、廃炉については地域ごとの温度差が大きいということです。地域の方に「今日、廃炉について勉強会に行ってくるんだ」と言ったときに、「廃炉、大熊とかの話でしょっ」と返ってきたので、「えっ」とちょっと引かかってしまいました。町には廃炉関係の方が1,500人も住んでいるのにこのような状況なので、もっと若い人たちが発信したり、町民の方に身近に感じてもらうたりして解決していくことなのかなと思っています。



◆ファシリテーター 地域の温度差も確かに相当あるかもしれませんが、私の出身地いわきでも、廃炉については東京と同じぐらいの距離感かなと思ったりもすることもあります。広く地域の方々に関心を持ってもらうということ、東京電力は県内のいろいろな拠点で取り組んでらっしゃると思いますが、この辺いかがでしょうか。

●東京電力 双葉郡の中でもこのような認識とこういうことを

◆ファシリテーター ありがとうございます。いろいろお話は出てきました。こういうことが足りないということがあればお願いします。

■参加者 震災の時の体験として、「大丈夫ですよ。大丈夫ですよ」と言っていたのに、蓋を空けてみたら炉心が溶融していました。「安全ですよ。安全ですよ」と言われても、それが信頼できるのかという気持ちが強いです。それは僕の中で大分解消はされてきて、このような対話は必要と思うし、海洋放出もいろいろな条件ありきでOKと考えていますが、そう思わない人もいるのですよね。だから、開沼さんや(経産省の)木野さんが言うのだったら信じるといふように、誰が言ったかというところは結構大きくて、そういうところで対話、コミュニケーションを深く濃くして、信頼関係を得ていかなければならないと思います。でも、こういう形式ばった場だと硬くなるので、前回参加した時も言ったように、「一緒に飲みに行きましょう」ということが大事なのだと思います(笑)。

◆ファシリテーター ありがとうございます。是非僕も一緒に飲みに行きたいと思えます。お時間もきましたので、そろそろ終了したいと思います。この場がスタートということ、いろいろと分からないことがあればまた聞いていただき、次に繋がれば良いなと思っています。あじが(と)い(わ)け(ま)した。



◆**ファシリテーター** 付箋もある程度まとまってきたので、参加者の皆さんには簡単に紹介いただきながら進めたいと思います。今日は「廃炉プロジェクト」について細かいところが出ていますので、「この辺から見ていきたい」と思っています。「30年後はどうなっているの?」という状況が理想?と書かれたのはどなたでしょうか。

■**参加者** 私は檜葉町生まれ、檜葉町育ちで、2019年3月に家族で避難先からUターンしました。私の30年前の記憶と比べると、東京電力の姿は事故になって廃炉が進んでと想像もしなかった形になっています。さらに30年からの30年後でどういう状況になるのか想像もつかなくて、この辺りを東京電力の方にちょっと聞いてみたいなと思いました。

◆**ファシリテーター** 東京電力の目線で30年後どうなっているかということ、なかなか答えにくくは思いますが、どうでしょうか。

●**東京電力** 廃炉は30〜40年と言われていますが、目の前のALPS処理水の放出、今後燃料デブリ取り出しという課題に集中して取り組んでいくというのが会社としての回答で、



個人的には30年後の東京電力、福島は本当にどうなるのだろうか、と思います。事故を経験した社員の年齢も上がってくる一方で、新しい社員も入って、会社ももっと変わっていかねばいけないと考えております。

●**東京電力** NDFの説明にあつたように、第1期、第2期と進めていき、30〜40年後に最終的な段階になるイメージですが、科学技術の進展に伴うブレイクスルーにより早く進むこともあり得るし、燃料デブリ取り出しという課題が非常に大きくて、中長期の計画がずれ込むこともあり得るかなと考えております。

■**参加者** 子供の頃に富岡町のエネルギー館でたくさん遊べたのも東京電力のおかげだと思っています。今は肩身の狭い思いかもしれませんが、ぜひ町の人たちと一緒に何かを作ったり、子供たちにもいろいろ教えたりしてほしいなと思います。

◆**ファシリテーター** ありがとうございます。「廃炉後の計画はどうなっているのか?」というのを書かれたのはどなたでしょうか。

■**参加者** 新地町から来ました。会社で復興関連の仕事もしていて、浪江町の仮設住宅で炊き出しとかもやりました。そのとき東京電力の社員が雨の日も雪の日も寒い中頑張っている姿を見て本当に心を打たれたのを覚えています。その中で、子供たちに向けて廃炉後の町の計画をどのように考えているのかを聞いてみたいと思いました。

◆**ファシリテーター** 地域づくりについては経済産業省(経産省)ですかね。

●**経済産業省** ありがとうございます。廃炉については国の中長期ロードマップにおいて、30〜40年かけて完了させていくことを目標に定めています。廃炉の後の町の姿ということですが、未だその絵姿は見えていない状況です。廃炉での難しい作業があり、その議論のスタートラインにさえ立てていない状況です。廃炉に関する課題を一つクリアして、まずはその議論のスタートラインに立ちたいと思っています。

■**参加者** 先の話で難しいと思いますが、アニメーションなどを用いて、こういう姿になるというイメージを示してもらえれば分かりやすいと思います。

◆**ファシリテーター** その見せ方はこれから重要になってくるかと思えます。

●**NDF** どういう絵姿を目指しているのかは今後皆さんの対話の中で生み出していくものと思っておりますが、NDFとしては、まずは燃料デブリを完全に取り出して、ダメージを受けた建屋もきれいに取り除き、元の姿に戻していくための技術開発を進めているところです。

◆**ファシリテーター** 廃炉で出てくる廃棄物はどこに置かれることになるのでしょうか。

●**NDF** 廃棄物も燃料デブリもどこかに保管することになりますが、具体的にどこで、どういう形で保管をするのかについては未だ決まっていない状況です。

◆**ファシリテーター** 次に福島第二に関するものです。「NDF(福島第二)はどのようにしているの?」と書かれたのはどなたでしょうか。

■参加者 ニュースでの話題は福島第一ばかりで、福島第二がどうなっているのかという話をあまり聞かないので、ぜひこの場で聞いてみたいと思いました。

◆ファシリテーター 関連して福島第二の遺構保存について書かれた方もいらっしゃいますか。

■参加者 富岡町の夜ノ森出身で、2018年に富岡町に戻り暮らしています。福島第二の排気筒は町のどこからでも見えて、排気筒が見える沿岸の風景に個人的に愛着を持っています。福島第一は事故を起こしましたが、福島第二は事故を免れたので、遺構保存がしやすいのかなと思っています。福島第二は、もしあのとき爆発していたら東日本全域が避難の対象になっていたかもしれないという教訓、あるいは当時の緊迫感を伝えるような施設になるのではないかなと思いますので、保存といった議論もそろそろしてもいいのかなと個人的に思っています。

◆ファシリテーター 福島第二の廃炉について、今言える範囲でお願いします。

●東京電力 福島第一は事故を起こして燃料が解け落ちたのに対して、福島第二は正常に運転を停止したので、一般的に廃止措置と書かれている廃炉を行います。この廃止措置は使用済燃料を取り出すというところから入り、その後に除染をして解体して廃棄物の保管に入るといったのが基本的な流れです。福島第二には福島第一のように共用プールが無いので、乾式キャスクというもので使用済燃料を保管することになります。

●東京電力 その先施設を保存するのかがどうかなどについては、福島第二同様に、今後地域の方々を含め一緒に話をしながら決め



とからも対話が始まるかと思うので、暮らしている人間も、専門家、技術者たちもお互いに変容しながら対話が進んでいくことが大事だと思います。

◆ファシリテーター 「福島に来てもらう、住んでももらうためにどうするか？」という付箋が挙がっています。手前みですが、先日新聞に掲載された私の調査では、双葉郡に住んでいる人の3分の1は3・11時点で住んでいた人ではない、つまり移住や仕事などで新しく来た人たちという結果を示しています。双葉郡は帰還した人たちと新

しく来た人たちが一緒に住んで地域を作っていくという状況ですが、もっと広く、福島に来てもらう、住んでももらうために経産省としてどのような取り組みを行っているのでしょうか。

●経産省 経産省として最重要課題と考えているのは、福島第一の廃炉と福島の復興を成し遂げることです。廃炉したら終わりではなくて、福島の復興も我々が前面に立って対応していかねばいけない課題だと思っています。福島に来てもらう、住んでももらうことについては、生活のインフラを整え、働く環境をしっかり整備することが大前提だと思っています。ですので、自治体が目指している町づくりと合わせながら、国として支援やそのための制度づくりを進めているところです。

◆ファシリテーター そのほかにいかがでしょうか。

ていくのかなと思っております。

◆ファシリテーター 福島第一の話に戻りますが、「100年かかるといふ情報が出ている中でいつスケジュールを変えるのか？」というのがあります。

■参加者 100年かかるといふ情報もニュースで目にするので、燃料プールの試験的な取り出しと中身の確認も未だ達成できていない中で遅れが生じているのかなと思っています。その辺りの見通しはどうでしょうか。

◆ファシリテーター 長期的な話なのでNDFですかね。

●NDF 30〜40年を目標して様々な技術開発を行っています。確かにニュース等では遅れているといった話ばかりです。でも、100年かかるといふこと、これも大雑把な話になっていると思います。スケジュールどおりに進めることを目指しつつも、一方でスケジュール通りにやるのが安全な作業に繋がるのかという問題もありませんので、これらを勘案して計画を見直しながら進めることになり、最終的に何年になるのかは見通せていないのが正直なところです。



責任感を持っておられるのを感じますが、事故を起こして廃炉をするという世界でもまれに見ることを現在進めているので、未知数なこともあると思います。分からないことは分からないということ

■参加者 南相馬市で建築と不動産の仕事をやっています。震災の時は郡山市のほうに避難しましたが、翌年には戻ってきて、3年間は仮設住宅の建設に明け暮れました。今は仮設住宅も全部解体されて、仮設住宅の提供は終わったと思うのですが、今、県外に避難されている方から双葉町に建築した住宅を一度診てほしいという相談を受けています。お子さんには双葉町の記憶がなく、旦那さん1人で戻ってくるようですよ。

南相馬市は鹿島区、原町区、小高区と3つに分かれています。避難者が少なかった鹿島区でも子供たちの学校のクラスは震災前と比べて半減し、野球も合同でなければチームを組めないというように、どんどん子供の数が少なくなっている状況です。なので、魅力ある浜通りの再興をぜひ望みたいです。

◆ファシリテーター 地域経済に関するものとして、「地域の経済・地公体とのつながりは？」、「市場拡大、ブランド強化への協力」一緒に地域を作りたい」と書かれた方、どうでしょうか。

■参加者 私は生まれも育ちも浪江町で、地元の企業に就職して働いています。浪江町の人口は震災前2万人ぐらいで、地域は東京電力や関連企業の恩恵を受けていたのかなと思っています。今の人口は1,800人程度で、移住や企業の方々もいらつしゃる状況なのかなと思います。双葉郡の現状を見ると、商店も少なく、住民が住み良い状況ではないので、30、40年という長いスパンの中で、廃炉イコール復興とおっしゃるような、東京電力には関わりを持っていただいて、地域と一緒に復興していただければと思います。

◆ファシリテーター これまで大手のメーカーやゼネコンがやってきていた部分を地元発注にするというように、東京電力で地元と

の繋がりで重視しておられることがあればお願いします。

●東京電力 福島第一の作業員は3,000〜4,000人との説明がありましたが、年に1回実施するアンケート結果からこのうち約7割が福島県に住民票を持っている方であることが分かっております。廃炉については、遠隔操作や燃料デブリということでも現時点では大手メーカーに頼らざるを得ないところがありますが、今後廃炉で使うものは福島で作っていくということで、昨秋会社を立ち上げ、福島第二の中に工場を作ります。最初は県外の技術者などに来てもらうことになりませんが、そこで働く人たちはなるべく地元からということでも雇用が生まれますし、県外から来た方もこの付近に住みますので、にぎわいも出てくると考えています。工場の稼働は3〜5年後ですが、そういった取り組みを第一弾、第二弾としてやっていく構想です。

◆フアシリテーター 私も英国のセラフィールドには行きましたけれども、NDFのレクチャーで英国の事例の紹介があったように、廃炉で稼いだお金を地元で消費することで飲食店なども盛んになり、教育にも投資して地元の高校は充実した進学校になっているようです。そういった波及効果が回ってほしいというところで、NDFとして何かやってほしいというものはありますか。

●NDF 廃炉と地元の復興を並行して進めるとの説明したように、両立するものだと思うしております。廃炉については、技術開発ということでも高度な研究開発を伴うものが多かったのですが、今後は燃料デブリの取り出しなどで現場作業のウエイトはより大きくなり、地元にお願する部分は増えてくると思います。一方で、最終的に全部取り出しきれいな状態になると地元との関係は無

くなると思える可能性もありますので、将来的な姿についてはこれから皆さんと議論して共通理解として作っていただければと考えています。

◆フアシリテーター 英国セラフィールドの例では100年かけて廃炉をするということで、100年は雇用がある、安定した経済基盤になるという発想のようです。一方で100年かかることをネガティブに捉える向きもありますので、安全と経済基盤の話は裏表の関係にあるかもしれません。そのほかにいかがでしょうか。



■参加者 僕は「同級生、知り合いが多く関わっているのが今後応援したい」と書きました。現在は小川町で実家の農家を継いでトマトを作っています。僕は地元の福島高専の卒業生ですが、震災のあった2011年3月は卒業する時期でした。同級生には4月から東京電力勤務という友達は何人かいました。東京電力に行くのは出せコースという感じで、同級生からも結構つらやましがられる感じだったのですが、震災でそういった友達が結構つらい思いをしたのかなということを感じていました。最近その友達と食事をする機会があって、仕事の話は別になかったのですが、凄く頑張っているということを感じました。今日廃炉の作業などの内容を聞いて少しは理解できたのかなと思っています。友達、後輩が現場で勤務しているので、今後も廃炉を応援していきたいと思えます。

●東京電力 励ましのお言葉をありがとうございます。お言葉に



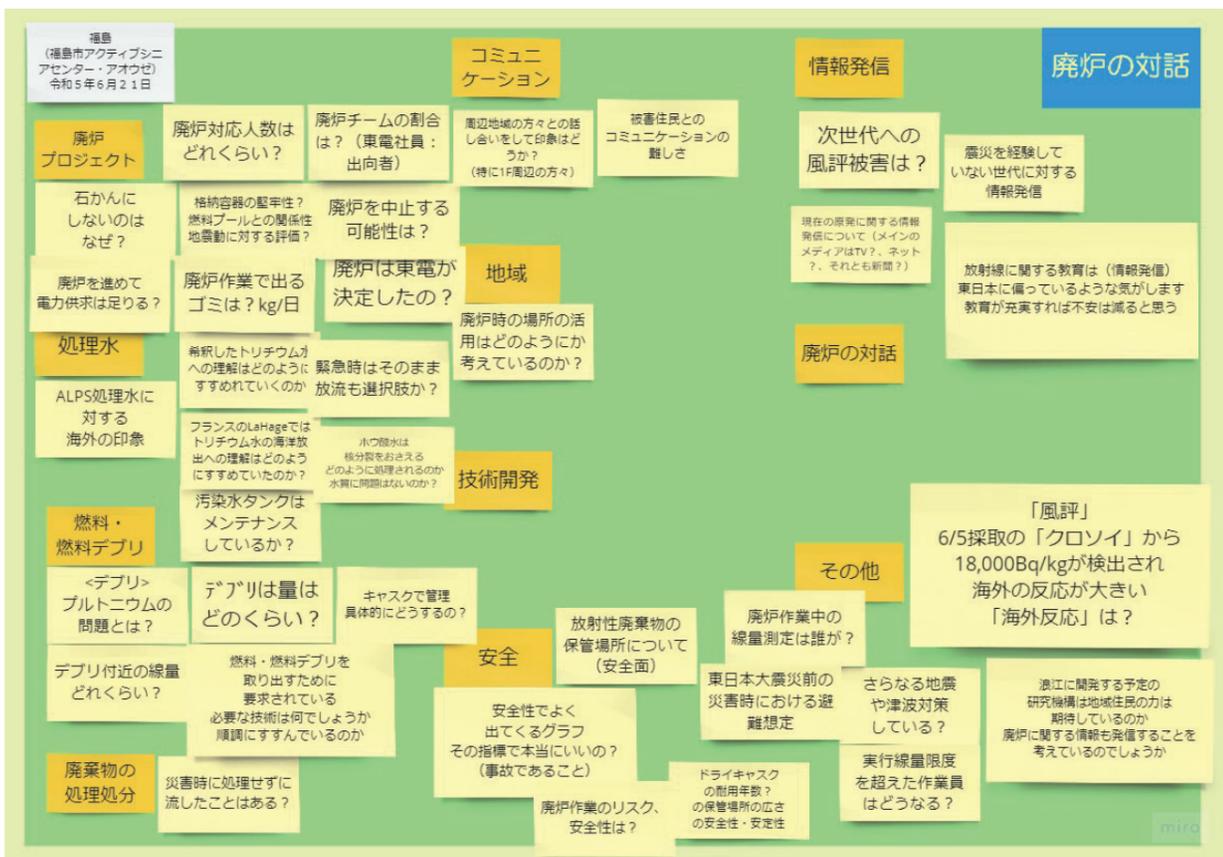
応えられるように一生懸命進めていきたいと思えます。私の部下に福島高専から震災後に入社した社員がいて、ロボットなどを一生懸命学び、現場で活躍しています。彼ら彼女らの高い志は本当に我々の活力にもなっています。

◆フアシリテーター オンラインでのご参加の方からはいかがでしょうか。

■参加者 「情報発信の有り方について」ということで、廃炉の理解を得るための取り組みとか、原子力に特化した情報発信ということでも出しました。私は地元生まれ、地元育ちで、震災当時も福島第一で協力企業の社員として働いていました。東京電力からのいろいろな情報発信についてはこれまでに見てきましたし、放射線量がこれぐらいだよという情報も見えていましたが、世の中の関心が薄れたせいかなかなか最近情報が出てこないと感じています。このような状況の中、情報発信の方法や効果という点で、東京電力でこんなことをやっている、あるいはこんなことをやりたいというのがあれば教えてください。

●東京電力 情報発信については、専門的でよく分からないとか、もっと丁寧なということとは以前からずっと言われています。情報の受け止め方は年代や地域などで様々ありますので、この点をその都度考えながら発信していく必要があると思っています。最近の例ですと、先般、ALPS処理水の海洋放出に関するデジタルサイネージを東京駅八重洲口に出しましたし、3月からは品川駅でも同様の発信を行っています。YouTubeでの動画配信、新聞の記事下広告など従来とは違う媒体での発信も徐々に行っており、どれくらい効果上がるのか確認しながら進めています。





◆**ファシリテーター** 付箋を書いていたのであります。時間が許す限り進めていきたいと思っております。大きくは安全、汚染水、処理水、燃料デブリといったところが挙がっています。安全のところから始めたいと思います。「安全性でよく出てくるグラフ、その指標で本当にいいの？」と書かれたのはどなたでしょうか。

■**参加者** 飛行機に乗っていたらこれ位放射線を受けるとか、病院のCTスキャンではこの位という説明の後、今住んでいる場所の放射線量はこれだから比べると安全ですね、というグラフがよく出てきますが、そもそも普通の生活をしている上で受ける線量と事故という形で受けている線量を同じ土俵で比較して本当にいいの？という疑問があります。私も子供に関わる仕事をしているので、この辺は子供たちからもよく出てくる話で、説明するときは凄く困るなと思っていて、お聞きしたいと思った次第です。

◆**ファシリテーター** 被ばく線量の相対的な比較の話で、その指標で本当にいいのかというお話ですが、東京電力が現場でコミュニケーションを行う際にどう説明をされているのか、といったところでお答えいただければと思います。

●**東京電力** 非常に回答が難しい質問かなと思っております。事故に由来する放射線というのはコントロールされずに出てきたものですので、心配されるということとはよく分かります。ただ、私も放射線というのは医学的に、発生源によらず、影響は同じだという説明をしています。例えば福島第一原子力発電所の中を1時間ほど視察いただいた時に線量計を付けていただいて、受ける放射線の量は歯のレントゲン2回分位だということ説明をして、

なるほど、それ位なのねということでも安心される方もいらっしゃる。本当に大丈夫なのかと疑問を持たれる方もいらっしゃる。これを根拠の部分から解消するのは難しいという気は個人的にはしていますが、このような説明をさせていただいているのが現状です。



◆**ファシリテーター** ありがとうございます。関連して、「廃炉作業のリスク、安全性」はどなたが書かれたのでしょうか。

■**参加者** 廃炉作業そのものによるリスクもあると思いますが、作業中にさらなる地震や津波が来た際に、施設の倒壊が進んで、中に入っている汚染水だったり、廃棄物だったり周囲に流れ出るというリスクをイメージして、対策が講じられているかな、ということに疑問を感じております。

◆**ファシリテーター** ありがとうございます。さらなる地震や津波への対策についてはいかがでしょうか。

●**東京電力** 津波に関しては、日本海溝、千島海溝を震源とする地震に伴い福島第一原子力発電所に襲来すると想定される津波の高さ以上の高さ確保した防潮堤を造っております。ただし、防潮堤の完成前に津波が来て、汚染水がたまってある場所に入り込んで、引き潮とともに海に流れ出ることを避けるために、建屋の開口部には水密扉を設ける対策を実施済みです。これと並行して防潮堤を造っております。さらに、燃料を冷やしている配管の機能が仮に失われたとしても、消防車等を使って機能を復旧させる訓練を含めた対策を行っているところです。

地震に関しては、溶けた燃料が何らかしらの影響によってまた核分裂が継続して起こるような状態になるのではないかと、この懸念をお聞きしますが、このような事態に対して、核分裂を抑えるホウ酸水を注入する設備を設けております。これは震災後に設置したものではなく、もともと原子力発電設備に配備していた装置です。

◆**ファシリテーター** 建屋自体が崩れなくても、建屋内部や金属な

どが弱って崩れるリスクも考えられますが、なかなか人が入れない場所への対策はどうでしょうか。

●東京電力 2021年2月と2022年3月に震度6弱の地震を経験しておりますが、その時に地域の方から福島第二原子力発電所は本当に大丈夫なのかという心配の声が寄せられました。幸い建屋等に影響を与えるような被害はありませんでしたが、その後、設備や建屋の耐震評価を実施しております。例えば具体的に、建屋と基盤に地震計がありますが、建屋が弱っていると、同じ揺れでも地震計の波形が大きく違ってきて、統計上の差が出てきますので、地震波の解析等によって建屋に影響がないことを確認しております。

それから、1号機の格納容器の内部調査を今年3月下旬に終了ばかりなのですが、原子炉圧力容器を支えるペダスタルという、上から見るとドーナツ状の鉄筋コンクリートの土台について、下の部分のコンクリートが無くなって、鉄筋がむき出しになっているということが5月に報道されました。これについても耐震評価を



続けており、仮に原子炉圧力容器が沈み込むとしても、支える構造物があるため限定的といった評価をしております。結論としては、最悪のことを想定した場合でも敷地境界で歯のレントゲン4枚分程度の放射線影響しか出ないという評価で、原子力規制委員会等でも報告しております。地域の皆様のご心配もありますので、耐震評価を引き続き実施させていただ

はもちろんなモニタリングをしておりますが、排水路から海に出ていくということとで汚染水そのものを増やさないという工夫をしています。

A L P S 処理水のタンクについては、2021年2月の地震でタンクとタンクを繋いでいる配管が少しよじれました。配管が外れたのではなく、管自体がよじれたというイメージであり、それもメーカーが推奨する許容範囲に収まっています。その後はこのような事態が発生した場合には弁をすく閉める訓練を行うなど、非常時に備えております。

◆ファシリテーター ありがとうございます。その他にいかがでしょうか。

■参加者 職場で震災当時に第3線で住民の方々に被害の説明をされていた医師と関わる機会が多いのですが、リスクに対するコミュニケーションが難しかったという話をよく聞いておりました。例えば、「実際の放射線量はレントゲンと比較してこれ位なので安心です」という情報発信をした場合、「あなたは自分の子供をこの場所に住ませることが出来ますか?」と返ってくるように、発信者が伝えたいことが相手の理解に届かないということがあります。これを根本的に解決しない限り同じような情報の発信の仕方が繰り返されてしまつて、情報を発信する側の専門家もメディアも受け手も疲弊してしまうのではないかと感じております。その辺りについて実際の経験を踏まえた対策や、どのような伝え方をしたらいいのか、といった議論があれば是非お聞きしたいと思います。

◆ファシリテーター 非常に重要なテーマだと思います。この点いかがでしょうか。

ている状況です。

◆ファシリテーター ありがとうございます。次に「緊急時はそのまま放流も選択肢か?」これは多分汚染水対策のことかと思いますが、これは緊急時を想定しているのかということでしょうか。

■参加者 台風とか災害時に配管が壊れるといった意味合いです。よく関東などの下水処理場では、台風で一定の水量を超えたら、そのまま処理せずに流すと聞いたことがあるので、似たような考え方が選択肢にあるかどうかを知りたくて書きました。

◆ファシリテーター 水が大量に発生したら処理が追いつかないとか、タンクはあれだけあるけれども、どうなんだといったところですね。この点いかがでしょうか。

●東京電力 建屋の中にたまってくる汚染水は通常はくみ上げて、周辺の地下水よりも水位が低くなるようコントロールしています。が、災害などで何らかしらの汲み上げができない状態になると、建屋の中の水位が周辺の地下水の水位よりも上がって、汚染水が外に出てしまうことが考えられます。これを防ぐ方法の1つとして、凍土遮水壁と呼ばれている、冷媒で凍らせて1号機から4号機までを四方囲んだ、深さ30m位の壁があります。さらには、海側に流れることを防ぐために、鋼管を壁とした海側遮水壁を設置しています。また、バキュームポンプ、バキューム車を用意して、汲み上げて、他の場所に移送する手段も確保している状況です。

●東京電力 少し違う観点からお答えすると、台風などで想定を超えるような大雨が降った場合につきましては、構内排水路の整備がかなり進んでおり、構内を排水路が何本も走っております。構内敷地に入った水はなるべくクリーンな状態で排水路に導き、これ



●東京電力 弊社の廃炉の話をさせていただいている中で思っていることをお話させていただきます。初対面の場合と、何回かの繋がりの中で私という個人を知って

いただいた後とでは話の伝わり方が全く違ってくると感じています。ですので、いろいろな情報を伝えたいということからの思いはあったとしても、まずはお話の前に人と人の心の繋がりがから始めていくことが一番大切なことなのではないかと思っております。

●東京電力 地元の高校生と対話する機会があり、最初はかみ合わないことも多々ありますけれども、そのかみ合わない状態が何度も何度も何回も何回も来たり往復すること、次第に理解が深まっていくということを私も個人的に感じております。

◆ファシリテーター 会話をして交流することは重要で、東電社員が地域に出ていって、「私たちも悩んでいるんです」というところを率直に言ってもらいたいというお話はこれまでの対話でも出てきております。

■参加者 現在の状況で言いますと、情報発信というのは、恐らく実際に被害に遭われた地域住民の方と事故との関係が薄いような全国の人たちに対しての伝え方とでは違うと思っています。

■参加者 このような災害が起こって地域住民の方と対話を続け

ておられますが、これをどのように検証して次に活かそうとしているのか、という点を率直にお聞きしたいです。

◆**ファシリテーター** 時間も経過する中で対話を通じていろいろ言葉が積み重ねられてきて、改善されてきた部分ということについてどう感じていますか。

●**NDF** NDFという組織ではそんなに多く経験はないのですが、ご迷惑をおかけした地域では、既に信頼関係は失われている方と対面して会話をするという状況があります。一方、東京などの電力消費地の方々、あるいはALPS処理水を海洋放出する際に風評を感じて消費行動に移ってしまうような方々に対しては、別のアプローチをしなければいけないと思っています。2022年の年末以降、資源エネルギー庁がALPS処理水のテレビCMを流したりしていましたが、皆様にも情報に触れてもらうというアプローチをしなければいけないと思っています。

●**東京電力** 地域住民の皆様といっても本当に様々であると認識しております。20km圏内では、ご自宅や農地から離れたり、お仕事とか失ったり



という方たちがいらっしゃいます。20km圏外でも、避難という意味では必要がなかった地域もあれば、津波の影響がひどい地域もあって状況は違いますので、地域をひとくくりにできません、お一人お一人でも状況が違いますので、お一人お一人からお話を伺う必要があると思っています。

◆**ファシリテーター** ありがとうございます。その他いかがでしょうか。専門的なところでも結構です。

■**参加者** 6月5日に福島第一の港湾内で駆除ということでクロソイが採れていて、1キログラム当たり1万8,000ベクレルあったことですが、国内では知らない方が多いのに、海外ではかなり大きく報道され、香港などではちょっとした騒ぎになっているようです。外国に対しては丁寧に説明してきましたと言いますが、国内に対してはどうか、海外への対応と国内への対応の乖離について対応策は早急にお願したいと思っています。

●**東京電力** 東京電力としては、今回のクロソイの件も含めて、高い放射性物質濃度が検出された場合には、福島県、我々と特に関わりの深い浜通りの13市町村、それから県及び隣接県の漁連をはじめとした漁業関係の方、あるいは水産庁にそれぞれご説明させていただいております。また、アジア各国やヨーロッパ諸国をはじめ世界各国への対応については直接行き届いていない部分が多岐に多いかと思いますが、政府の力もお借りしています。

また、風評払拭のために福島県産品の販売促進活動にかなり力を入れて取り組んでおります。メインは首都圏で福島県産品の販売活動、流通のお手伝いなどもさせていただいております。福島県産品を海外にPRする機会やイベントのお手伝いをさせていただ

く機会が出てきておりますので、このような活動が少しでも広がってほしいと思います。

■**参加者** 日本と仲の良いフィリピンなどからも相当言われ始めていますが、信頼関係を作らないと何にもできませんし、離れている国の人ほど疑い深くなり、攻撃的になると思いますので、私たちはどうしますか、ああしていますかというのを二方向的やるのではなくて、もう少し人間同士仲良くする方法を探った方が良くないでしょうかね。

●**NDF** 海外の国と理解し合える関係を作っていくということは本当に大事だと思います。例えばIAEA(国際原子力機関)のラファエル・グロッシ事務局長は、福島第一原子力発電所の特にALPS処理水のプロセスにおいては2年以上前から付き合ってくださっており、自らメッセージを発信してくださったりして日本政府全体としては助かっていると思います。パリのOECD/NEA(経済協力開発機構/原子力機関)のウィリアム・D・マグウッド事務局長も福島第一原子力発電所のことに関してはとても熱を入れて時間を割いてくれる人物で、事故後10年レポートを作成し出版しました。あるいは米国の原子力規制機関も応援してくれています。もっと人間レベルのという関係も作った方が良くないという意見ですね。



政府間のレベルでも理解してくれる人ということでお話させていただきました。

◆**ファシリテーター** ありがとうございます。次に、処理水対策のところでも「フランスのラ・アーグではトリチウム水の海洋放出への理解はどのように進めていたのか」という問いが出ています。ラ・アーグでは福島第一にある全てのトリチウムよりも多くの量を年間で放出しているのですが、いかがでしょうか。

●**NDF** ラ・アーグというのはフランスの原子力発電所で使用した燃料を再処理する工場です。お話しするのはラ・アーグの工場ではありませんが、同じ再処理工場が六ヶ所村にあって、この工場では実際の使用済燃料を使った稼働前試験を行う前に、放射性物質の放出量や環境中の濃度の評価結果も公表していました。2005年ごろですが、新聞に掲載された際にはとてもインパクトがありました。一般公衆の被ばく評価を含めて公表していました。

◆**ファシリテーター** 透明性を高めていくと、大きくはそういう話かなと思います。

■**参加者** トリチウムの問題が私の中で一番気になっていますが、自分としては3年前までの情報で止まっています。凍土遮水壁はうまくいっていないという印象を未だに持っています。その後テレビを見なくなると、スマホしか見なくなりました。情報を発信

する側が今までと同じ方法でやっても、情報を取る側は好きな情報だけを得るような状態になると、なおさら関心のない人に伝えるのが難しくなるのかなと思っています。その辺に訴求するために、もっと新たな進歩的な方法を何か探っていたらいいなと思っているので、書かせていただきました。

◆ファシリテーター 情報発信で何か意識されていることか、近年強化してきたことかがあれば、お話しいただけますでしょうか。



●東京電力 凍土遮水壁と呼ぶ水の壁がうまくいっていない時の印象があるのですが、恐らく2016年頃は全周の一部がなかなか凍らないとかいう話が頻りに報道されておりました。凍っからは、テレビ等で報道されることはほとんどありません。残念

ながらネガティブなトラブルについては伝わる状況です。先ほどのNDFからの情報提供の中では、1日当たり130mの汚染水が発生しているという話がありましたが、様々な対策を取って、雨量にも依存していますが、昨年1日90mまで減っています。こういったことがうまく伝えられていないところがあります。

情報発信ということでも新聞広告やテレビCMについては、東京電力はその資金を賠償に回せ」というご意見もあり、ずっと躊躇して実施できませんでしたが、ALPS処理水のお話が出てきてからは定期的に新聞広告を出したり、首都圏の関心がない方に向け

もう少し若い人達に教えるという点で何か東京電力では協力はされているかについてお聞きしたいと思います。

●東京電力 廃炉の現状について理解いただくには、視察に来ていただくことが一番かと思えます。16歳以上の高校生の方については保護者の承諾書をいただければ入構できます。

事故後5年経った2016年に福島高校の生徒たちが自ら入りたいと言って視察にいられたのが初めてです。授業とか課外授業で放射線のこと、事故のことについて非常によく勉強されていました。それをきっかけに県内の他の高校の生徒が随分と来られるようになってきました。また、福島高専が廃炉のロボット開発という観点で廃炉ロボットというのをやり始めて、全国の高専でこういったロボットを作るということを毎年のように競うようになってきたりしています。

●東京電力 今、大熊町の復興へ携わることによって大学生が休み等を利用して来られています。その際に弊社に廃炉の話をしてほしいという依頼を昨年位からいただいています。3、4回位これまでにやっ



て東京駅の丸の内中央口から八重洲中央口までの中央通路にあるデジタルサイネージを借り切ってALPS処理水処分に関する「お伝えしたい18のこと」を流したりしております。また、希釈したALPS処理水でヒラメを飼って、Twitter等でその飼育日誌を毎日発信するなど、従来の縛られていた状況からは一歩前に出てやらせていただいております。

●NDF 東京電力では処理水ポータルサイトというウェブを運営していて、処理水の希釈設備の説明などもイラスト入りで分かりやすく作られています。SNSを見ると、希釈設備を誤解している人がかなりいて、トリチウムに関しては海水に出した後希釈して1,500ベクレル/L以下になると認識している人が結構多いらしいのです。処理水ポータルサイトを読むと、陸側の施設で1,500ベクレル/L未満になるのを確認してから放出するということが分かりやすく説明されています。このような基礎的な話も実は知らない人が多いということなのですが、本当はもう少しメディアがきちんとニュースなり媒体なりで、基本的なことを広くみんなに伝えてくれれば、この間際になって「えっ、そっなの？」という話は多分出てこないのだと思います。

去年開催した廃炉フォーラムでも学生の1人から「風評被害、風評被害と言っているけれども、メディアも責任の一端を担っているんじゃないですか」といった意見も出ました。メディアも良い・悪い以前に、事実を事実としてもう少しきちんと報道する姿勢があってもいいのではないかなと最近思っています。

■参加者 今のお話を聞いていて、メディアに頼るのがどうなのかなというところがちょっとあります。大学に勤めている者として、

て、それをまたSNSを通じて紹介いただいて、別な大学の学生から話を聞きたいといった話が出ています。

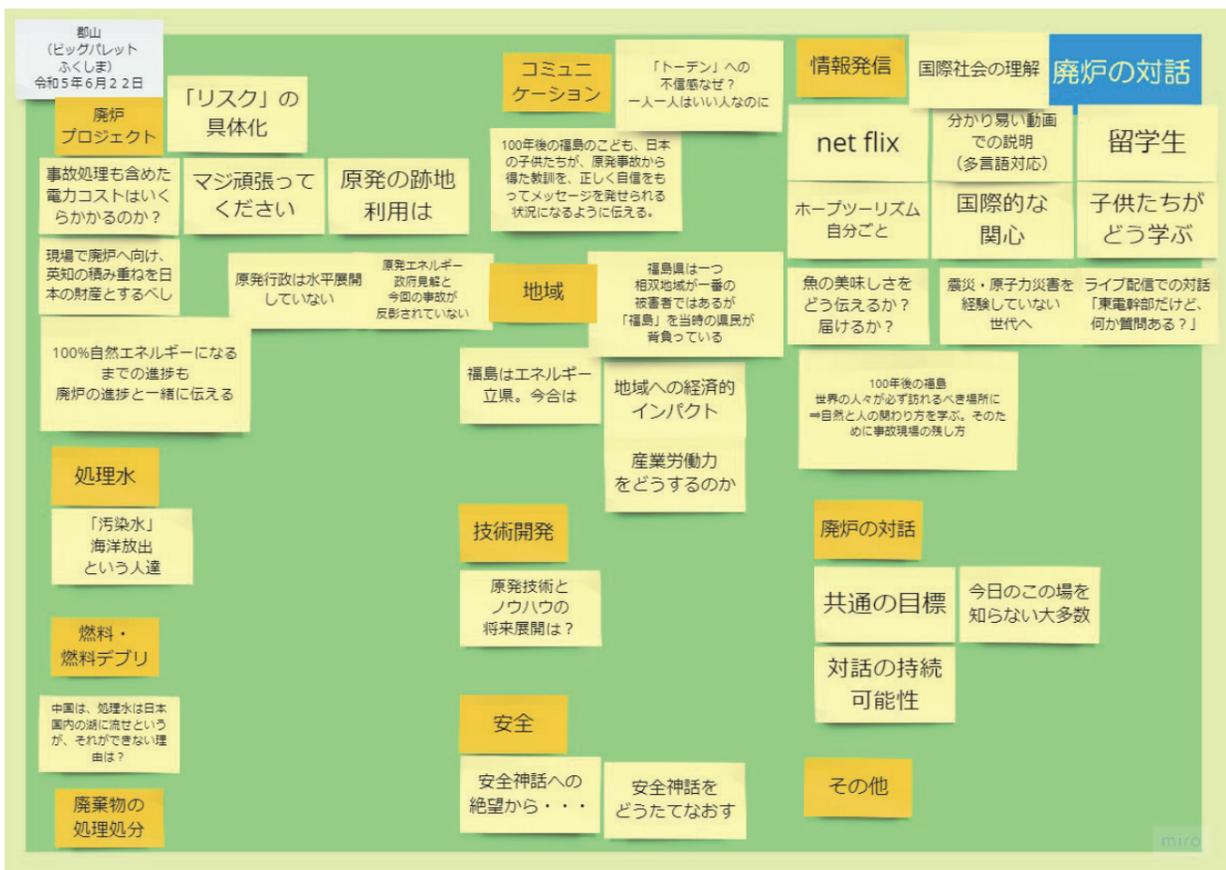
■参加者 恐らく興味を持っている人たちは結構いっぱいいると思いますので、県内に限定せず日本全国に周知されて広げてほしいかなと個人的には思っております。

●NDF NDFにも昨年大阪方面の高校の方々が30人位我々のところに来られました。放射線リテラシーといったことは教育の中でやろうという先生はたくさんおられる感じはします。

■参加者 放射線に関する不安も取り除かれるので、間違った情報が広がることは少なくなっていくと思いますので、そういった努力はまだまだ続けてもいいかなとは思っています。

◆ファシリテーター 時間になりました。何回目かの参加の方がいらっしやいましたけれども、この場合は今後も続いてまいりますので、ぜひ今後も御協力いただければと思います。また、8月の本番でもさらに深い議論がされますので、こちらも参加いただければと思います。本日はこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。





◆ファシリテーター 情報発信に関する付箋が多いと思いますが、一回後に回して「原発の跡地利用はこうなっているの？」から始めます。これを書かれた方はどなたでしょうか。

■参加者 今は多分更地にして戻すことになってると思うのですが、廃炉はしっかりと行った上で、原子力災害の悲惨さを伝え、福島がこれから先世界中から人が訪れる地域になるためには、あの悲惨さを形として残さなければいけないと思っています。

◆ファシリテーター ありがとうございます。跡地利用とか傳承といつことですね。このあたりの長期的な視点はいかがでしょうか。

●東京電力 まず廃炉作業を最優先にということですが前提ですが、来30年、40年先については、地域の皆様、社会の皆様と今後どうしていくかということも十分考えながら進めていくということでは考えております。

●NDF 今参加者の方がおっしゃられたように、いろいろな使い方があると思います。一方で、更地にして施設を取り去るといことも決めていません。事故後30年から40年経た時に、どのような形になるのかは、計画を策定していない現状にあります。NDFは東京電力が廃炉を円滑に進められるようにすることが仕事なのですが、分からないことがまだまだ多過ぎて跡地利用について決められる情報がまだ十分ないと思っています。

◆ファシリテーター ありがとうございます。これと関連して情報発信のところにも「子供たちがどう学ぶ」、「震災原子力災害を経験していない世代へ」どう伝えるのかということもありません。これを書かれた方、ご説明お願いします。



■参加者 私自身子供が2人おります。下の子は1歳になったばかりの時に原子力災害がありまして、それこそ震災を記憶していない世代です。先日も子供が自分のことを学校で発表する機会があったのですが、今後「福島出身です」と言った時に「いろんな経験をしているんだね」ということを言われた場合に、しっかりと伝えられる正しい情報や今後に向けての何かビジョンなどを語る自信がない自分達自身に対する危機感や課題感があると言っていました。

福島で生まれ育ったということは間違いなく子供達のアイデンティティですので、学校教育でのプログラムやホープツーリズムとすることも書かせていただきましたが、何を学ぶのかについてもっと主体的に福島の子供たちが関わるべきだろうなと思っています。

◆ファシリテーター 子供が自分の言葉で考え、自分で語れるようになり、考えを持っているようにするという意味で、どういった取り組みが今行われているのでしょうか。

●東京電力 地元の高校や中学校では社員による出前授業をやっておりますが、人員にも限りがありますので足りないところがあるかと承知しております。高校生については、親の許可が得られれば福島第一の視察に来て実際に目で見て感じてもらうことができます。自分ごとで感じていただけたらと思います。今後、徐々にではありますが、こういった教育、ホープツーリズムなどの取り組みも広がっていくと考えております。

◆ファシリテーター 情報発信に関するところで、「国際社会の理解」、「国際的な関心」と書かれた方がいらっしゃいます。少し補足いただけますか。

■参加者 国内の理解という点で、処理水放出については頑張ればいけるので、凄く大変だというイメージを持つようになっていきます。国内でどうやって理解してもらおうかという話が多いと思いますが、海外でどう理解してもらおうかについて良い打ち手が出そろっていないような感じがして、これからの課題なのではないかなと思っています。



◆ファシリテーター 国際的な取り組みはどのようにでしょうか。

●NDF 政府間のやり取りは外務省、経済産業省が行っています。NDFは廃止措置に関わる専門的な人材との協力関係を作るといことで、フランス、英国、米国の機関と定期的に会合を持って情報交換、人的交流を進めております。国際機関については、IAEA(国際原子力機関)やOECD/NEA(経済協力開発機構/原子力機関)と専門家同士の情報交換を通じて、日本のやり方は間違っていないと言ってくれる仲間を増やしていきたいです。

す。ここに政治が介入すると政治的な遊びに利用される可能性もありますので、外務省、経済産業省に防波堤になってもうしかならぬと思っています。

◆**ファシリテーター** 政府や専門家レベルで対応されているところの限界といった話かと思えます。情報発信のところに「Netfix」とか、「ライブ配信での対話」東電幹部だけ、何か質問ある？」という付箋も書いていただいています。どなたでしょうか。

■**参加者** ライブ配信というのは、今日のような対話の場をもっとオープンしてみんな見ることができれば良いのではないかなと思いましたが。ごんごん質問が来るけれども、誠実に答え続けることで、だんだん理解が深まっていくのではないかなという発想です。Netfixは今度やっているドラマの影響で、ごいアクセスが増えているというニュースを昨日観て、関心を引くきっかけになっているので、多言語で的確に伝える努力やインフルエンサーを巻き込むなどの取り組みもごんごんしていただいていると思います。

◆**ファシリテーター** ライブ配信となると東電社内でもわめきが起りそうなのですが…。

●**東京電力** メリットの一方で、デメリットもありますので、それを十分に検討しながらになると思います。今この時期にやるかどうかという議論は当然ありますので。

先ほどの外国への対応については、当社の方でも大使館に出向いて説明したり、メディアに福島第一の視察に来ていただいたりしています。やはり正しい知識を持って正しく発信していただくとい



●**東京電力** 温かいお声をいただきまして、本当にありがとうございます。事故を起こした当事者として、頑張っていますとは言えませんが、一方で、今後入社してくる若い人たちの頑張りをお分かっていただけのようにすることも非常に大切なことだと思っております。

◆**ファシリテーター** 社員教育はどういった感じでしょうか。

●**東京電力** 特に新入社員については、被害を受けられた地元の方々へのご支援ということで、家屋片付けや除草作業などに携わりながら、地元の皆様からの声やご苦労を直接心に刻むという

ことをやってきましたが、コロナでそのような活動ができなくなりました。コロナが収束して地元の復興のお手伝いをさせていただくことが通常通りできるようになったら、直接出向いて直接皆様からの声を聴くことが一番大切なことではないかと思っております。

●**東京電力** 加えて、事故を起こした当事者として、当時の映像を

うことで、その辺は地道に従来からやっております。それがどう伝わって、その後どうするかまでは行き着いていないのかなと思っております。

■**参加者** 趣味でアマチュア無線をやっている「MY QTH is Fukushima prefecture」と言うところと海外の人は最初は引いていましたが、最近はどうもごんごん声をかけてきてくれるようになりました。なので、「福島は大丈夫だよ」とPRしています。

◆**ファシリテーター** ネガティブな意味で「福島」という言葉が知られてしまったけれども、逆に世界の人が知っているワードでもあるので、そこをどう変えていけば良いかというところがあるかもしれません。次に「共通の目標」と書かれた方はどなたでしょうか。

■**参加者** 事業の中で女性活躍といったところをやっていますが、男性と女性が対峙してしまうとなかなか前に進まなくなりますが、より良い未来にするためには横に並んで共通に目標を掲げて歩くと一気に進むというところがあるので、原子力でも様々な利害関係があっても互いの消耗戦になることはあったとしても、その中でも共通の目標を掲げて歩むということがとても大事だろうなと感じています。

◆**ファシリテーター** その他にいかがでしょうか。

■**参加者** 「マジ頑張りてください」という付箋を書きました。本当に心から頑張りてくださいという意味と、もう一方でその心の距離感だということがあります。皆さんが真剣に取り組まれていることは見聞しますけれども、私は福島市内で会社をやっている、ごんごん遠いところになっていて、いま自分ごととして入っていないところがあります。

見たり、座談会を行ったりする施設を活用して、事故の教訓を風化させない教育も行っております。

◆**ファシリテーター** 関連するところで「福島県は一つ、相双地域が一番の被害者ではあるが、「福島」を当時の県民が背負っている、これも意味が深そうですね。

■**参加者** 相双地域では避難させられた地域があって、今徐々に帰還されてきています。当然賠償金ももらっていますが、もらった。もらわないということも県民の中で壁を作ってしまった。我々の同級生でも奥様が放射能に関する情報がなくてヒステリックになって子供を連れて遠くまで行ってしまい、結果離婚、というような現実が数え切れないほどあります。どこに行っても福島というものを背負い、多分いまだに抱えながら口にも出せずに生活をしている人がいるということをお忘れなさいたいなと思っております。震災前から福島では会津、中通り、浜通り、ここに壁があつてなかなか一つになれませんでした。だからこそ今この震災後を経て、福島が一つになるチャンスなのではないかなと思っております。

■**参加者** 事故になった時に、東京電力の技術力がどうなのかなと思いましたが。事故の経験も少ないためだと思いますが、いざとなつた時の安全対策といった技術やノウハウがあまりにも貧弱であつたのではないのでしょうか。水素爆発が起るから海水で冷やしたということですが、その他に方法はなかったのでしょうか。

●**東京電力** 実際に何が起きたときに、安全神話ということ非常に弊社も反省すべきところではございます。何かがあつたときに設備や協力企業の皆様の方に頼ることなく現場に行つて事故を収束する、いろいろな作業をやる、これはまさに社員が直接

やらなければいけない。この直営力を強化するために、福島のような事故が仮に起こった場合においても、安全に収束するための設備、それを使う当社社員の技術力を高める取り組みを行っている状況です。

◆**ファシリテーター** 関連して「安全神話への絶望から…」とありますが、いかがでしょうか。

■**参加者** 昔から原子力発電は「安全ですから」ということを謳っているが、このような事態になったことについて問題提起する意味で書きました。

●**東京電力** 私個人も東京電力に入社した時は、5重の安全の壁、まさに安全であるという教育を確かに受けて、安全であるとも私も確信しておりました。お恥ずかしい話です。3月11日の事故の2日後に支援ということで現場に入りましたが、愕然としました。中央操作室に入って電気がない状態、安全であるという施設がことごとく動かない状況でした。安全であったはずの原子力、これは本当なのか、夢なのではないかと思ってしまうました。原子力が与えた影響については、今後東京電力に入ってくる若い世代に伝えていくことが必要ではないかと思っております。



■**参加者** 付箋にも書かせていただきましたが、話題提供の資料を見ていて、地元にも仕事回る仕組みをとっていただけているのかなと思いました。廃炉に向けてコストを下げることもミッションとしてあるのかもしれませんが、地元の経

理を見ていて、地元にも仕事回る仕組みをとっていただけているのかなと思いました。感じていただけているものと考えています。

◆**ファシリテーター** ありがとうございます。事故処理も含めて電力コストはいくらかか

るのか？については、NDFから説明いただけますでしょうか。

●**NDF** 事故のトータルコストは、政府も含めて今ある知識で算出しているものになります。廃炉費用については、現在のところは約8兆円という見積りです。これに基づいて、東電は毎年廃炉等積立金をNDFに支払い、積み立てています。令和4年度は、約2,700億円でした。東京電力は廃止措置を進める上での計画を経済産業省に提出し、承認を得て、この積立金から廃炉の費用を引き出します。また、賠償については、現在、約11兆円が支払われています。これはNDFが政府の資金で支援していますが、長期的には、東電の負担金等で政府に返還されます。

◆**ファシリテーター** 関連するかどうか分かりませんが、「原発行政府は水平展開していない」という付箋があります。これはどういう意味でしょうか。

■**参加者** 原発再稼働の動きがありますが、福島第一原子力発電所の廃炉をやっている大変だという時に、再稼働の水平展開というのはちょっと今敵しいのかなと思っています。

●**NDF** 私は政府に去年までいて、今は政府の人間ではないのですが、原子力を再び利用することは現政権の方針であったとしても、福島第一原子力発電所の廃止措置、ALPS処理水の海洋放

済も良くなるようにしていただけたのが良いのかなと感じました。

●**東京電力** 廃炉作業にかかる費用については、電気料金から捻出しているお金ですので、大切に使う必要はありません。一方で、福島県の経済活動にも寄与し、復興の未来に繋がるといふことで、廃炉作業はいろいろな難しい作業もありますが、福島県や地元の企業に廃炉作業に関連した製品の製造や工事をお願いできないかということでご相談をさせていただく窓口を作って進めているところです。

■**参加者** そうやって大きな仕事を細かくして地元の企業に回していただいて、お金が回るようなスキーム作りもお考えいただけるとうれしいなと思います。

◆**ファシリテーター** その他にいかがでしょうか。

■**参加者** さきほどの新入社員の方の話を聞いていて、僕は今日本で最も優秀な学生に東京電力に入社してほしいと思っていますが、やはり東京電力の中にもビジョンみたいなものがあつたほうが良いのではないかと思います。廃炉をやり切るのももちろんとして、それだけだとこれから入社しようと思う人にとっても正直魅力的ではないような気がします。中で働いている方が誇りを持てるようにしていただく必要があると思っています。

◆**ファシリテーター** こちらの意見についてはいかがでしょうか。

●**東京電力** 1つの例として挙げさせていただくと、廃炉作業では放射線量が非常に高いところがあつて、遠隔でロボットを使って調査をする、溶けた燃料を取り出すということなどで、ロボットが非常に重要なポイントになってきます。福島高専を始めロボットに対して非常に興味を持って取り組んでおられる学生が入社してき

出がうまくいかなければ難しいと思っています。ただ、これらを同時に進めているのは、福島第一原子力発電所をきれいにしてから原子力の利用を再開するというのでは、やはり失うことも大きいということもありますので、そこは難しい政治的な判断なのだと思います。

◆**ファシリテーター** ありがとうございます。続いて、「汚染水」海洋放出という人達と書いてある。これはどなたですか。

■**参加者** 県内には、「汚染水を海洋放出する政府に反対だ」という人もいるのですが、この言葉を聞いて結局は福島のことを真剣に考えていないんじゃないかと思ったりするわけです。先ほど「政治的な遊び」という言葉がありました。今でも政治の道具として利用されてしまつて、さらにそれに乗っかってくるマスコミもあるのが非常に口惜しいなと思っています。

◆**ファシリテーター** 汚染水と処理水は違うという話を聞いたことがある人も徐々に増えてきてるところもあるかと思いますが、まだ知らない人が「汚染されているものをそのまま流すんだ」と言つて、それがまた海外で報じられると「ああ、そうなんだ」といふ話になっているところだと思えます。東京電力ではどう受け止めていますか。

●**東京電力** 「汚染水」という言葉が一人歩きをすることによって風評を含めた影響が大きいと思っています。私も地域の皆様と話をする中で、ある方は「風評は実は福島県から発信をしているんじゃないか」とおっしゃっていました。国外の話もあるかと思いますが、私が思うに、まずは地元福島県の皆様に真実を理解していただく、これが本当に必要ななと思います。福島県の県民が大丈夫

と言っているんだから、それを県外だとか国外から何を言っているんだと。まさにまずは地元の皆様に伝わるように理解を進めていかなければと思っています。

◆フアンシリテーター その通りですね。風評の問題はなかなか根深いというところですね。あと、「対話の持続可能性」これはどなたが書かれたのでしょうか。

■参加者 今お話を伺っている中ではまだまだ分からないことが沢山ある。今日私が参加させていただいた、これだけでは駄目でやはりその時々々の現状をしっかりと理解して、より良いものをまた対話で生み出していくという作業がずっと必要なだろうなと思っていますので、書かせていただきます。

◆フアンシリテーター 今回の対話の場合もNDFで続けておられていて、東京電力が廃炉を実施している限りは実施されるのかと思いますが、NDFはいかがでしょうか。

●NDF NDFは東京電力に廃止措置を続けてもらうために存在していますので、NDFの自らを映す鏡として対話の場皆さんのコメントをいただきたいと思います。徐々にはありますが、NDFも少しは信頼できる組織じゃないかと言ってくださる方が増えればという思いもありまして、こういった対話の必要がなくなる位、理解が進めばという意識で、数十年はやるつもりで思っています。

■参加者 さっき付箋に書いたのですが、今日おいでの東京電力の皆さんお一人お一人凄く真摯で真面目で丁寧にお答えいただいている方なのですが、東京電力という集団になるとなぜか不信感とつか、何でこんなに信じられないのだろうと思ったりします。



■参加者 東京電力の方はいろいろな低姿勢で頑張られていると思いますが、会社が潰れると本気で思ったことはどれだけあるのかなと思います。我々は中小企業でいつ潰れてもおかしくない。とにかく目の前の社員を食わせるために自分の会社を何とかしなければいけないということまでやってきました。



この人からだったら信頼して買えるという関係性が出来て、自分が感じたことを一人でも多く伝えようと思って、フードキャンプという取り組みを始めたのですが、次はトヨタと組んで水素のキッチンカーを作って、相双も含めた県内を回って、福島県が1つになるためのきっかけとして、そして福島県の人自身が地元を再発見するための取り組みに向けて動いています。

地元の人が地元のおいしいと言っている

◆フアンシリテーター さきほどのライブ配信のように、それは難しいみたいな崩さない感じが建前的に見えてしまって、一人一人が良い人というのは多分ある一方で、官僚的に見えてしまうところかなとは思いますが、でも「自身の意識」としてはいいと思います。

●東京電力 やはり原子力事故の当事者であるとしても、その前から後も不信感を抱かせるような事を続けていたからかもしれません。社員としても本心に恥ずかしいというのか、情けないというのか、そういったところはやはり東京電力というのがイコール不信感というところのひとつになっているのかなと率直に感じております。

◆フアンシリテーター その他いかがでしょうか。

■参加者 私は食品の販売などをしているので、自分が当事者意識を持って今処理水のことを考えると、いかに魚のおいしさを伝えるかみたいなことを思っています。いろいろな不安とかあるかもしれないですけども、それを乗り越える位めっちゃ面白いなとか、楽しいなとか、そういうことを感じさせるようなことが大事だと思っています。今日来られている参加者にフードキャンプという素晴らしい事業をされている方がいらっしゃいます。フードキャンプという取り組みに参加してもらったら、風評とか途切れるのではないかなと思いますので、海外の人も含めて体験を届けるといったところが凄く大事だなと思っています。

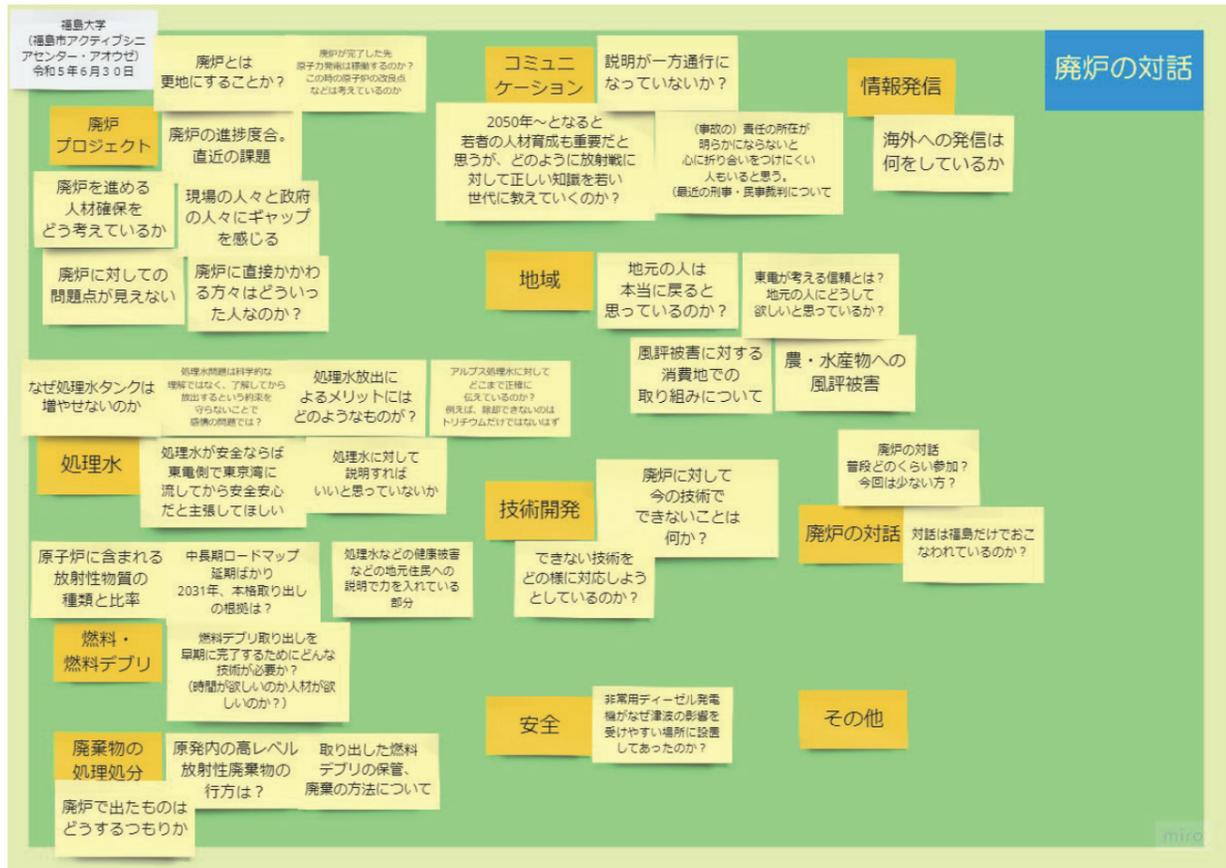


と、何だろうと思って東京の人がのぞきに来るのではないかなと思うのです。それ位福島県は食材においては自立できる豊かな地域であり、地元のを地元で食べている限り今までと豊かさ変わらない生活ができる地域だと思っています。そんなおいしいものを他の地域に持っていくって食べてもらわなくても良いのではないかな、とそういう気持ちです。

広島、長崎、熊本、水俣の人たちも震災直後に福島にいっぱい来てくれて、水俣の方からは「水俣は30年かかりました」という話を聞きましたので、私も30年は覚悟しないといけないと思います。それまでは風評被害はなくならないだろうし、時間がかかるとかだと思っています。今でこそ広島もサミットであれだけ注目を浴びましたが、そこに至るまでの地元の方の苦労は並大抵のことではなかったと思います。一方で、福島原発事故を経験したからこそもっと成長できた自分がここにいるかなと思っています。で、これからはいろいろな災害があれば寄り添って支え合う、そういうことが福島から発信できるようになれば良いと思います。

◆フアンシリテーター 東京電力も社内で福島産品を買うようなことをやっていますけれども、それをもっと発信しても良いかなと思います。そんなに安全と言っただけなら食べてみるよといった話が多分海外ではかなり飛び交っているけれども、「いや、食べています」というような発信もしても良いのかなと今のお話も含めて思っています。ぜひフードキャンプも行っていただくと良いのかなと思います。お時間が過ぎてしまいました。対話は今後も続いていくということなので、本日は終わりたいと思います。ありがとうございます。

と、本日は終わりたいと思います。ありがとうございます。



◆**ファシリテーター** まずは「東京電力が考える信頼とは? 地元の人にどうしてほしいと思っているか?」というところから始めたいと思います。この対話の場のあり方にも関係するところだと思います。これを書かれた方はどなたでしょうか。

■**参加者** この対話は東京電力に対する信頼を得ていくために開催されているのだと思うのですが、まだ地元では信頼していない方も多い状態だと思います。東京電力では住民サイドからどのような信頼や支援を得たいと考えておられるのが気になったので質問しました。

◎**東京電力** 事故以前のように地域に根差していた福島第一原子力発電所あるいは福島第二原子力発電所の時代に戻するような関係、それは地域の二員としてそこに住んでいたし、お祭りにも参加していた、地域行事にも参加していた、お隣さん同士で交流があったというところの関係性に戻るとというのが理想だと思います。住民の皆様の帰還が始



まったばかりですが、東京電力社員も家族で住んで地域の皆様と交流できるようなになればと思っております。

◆**ファシリテーター** ありがとうございます。現場の人々と政府の人々にギャップを感じる」という意見が出ています。いかがでしょうか。

■**参加者** NDFや東京電力の説明を聞いていて、皆さん一生懸命やっているのはわかりますが、政府、国としての説明は一方的で終わってしまっていて、会話になっていないような気がしますが、今までやっていなかったからやらないではなくて、一歩踏み出してみればいけないかなと思います。

◆**ファシリテーター** 政府に近い側はNDFだと思えますが、いかがでしょうか。

◎**NDF** 皆様からは政府が一方的と見えるかもしれませんが、政府も様々なやり方で、少しずつですが会話をしようとしています。経済産業省の木野参事官は事故後からずっと

福島にいらつやって、町内会単位というように個別に会話されている新聞記事が先日も出ていました。これは個人での取り組みというよりは、現地本部の取り組みとして少しずつ始めているところだと思えます。あとは福島評議会(廃炉汚染水・処理水対策福島評議会)といった場で、地域の代表の方や有識者との会話も進められていると思えます。

◎**NDF** NDFが主催する廃炉国際フォーラムも第一回会合は一方通行のものでスタートしましたが、地域の皆様とのギャップをできるだけ埋めたいとの一心で、徐々に対話をしていくスタイルに変わり、その手法のひとつとして本日のような双方向の対話を実施しているところです。

■**参加者** ご説明いただいたような対話はあると思うのですが、大臣といった国のトップに立っている方々がどのように考えているのかについて不安を感じています。

◎**NDF** ご指摘のように、大臣といったハイレベルの人、あるいは政府の関係者は、地元の皆様と対話をしたからといって、すぐに政策に反映できるといった話ではないと思えます。ですが、皆様からいただいたご意見というのが行政組織の中でも記録に残されて、そしてそれを考慮して政策を徐々に変えていくというところもあるかと思えます。先ほどの福島評議会という話もありますし、廃炉国際フォーラムには必ず経済産業省や原子力規制庁などの政府関係者が出席していて、その場での対話の記録や蓄積によって地域で望まれていることをゆっくりではありますが認識していると思えます。

◆**ファシリテーター** 続いて「廃炉の進捗度合、直近の課題」と書か

れていますね。これはどなたでしょうか。

■参加者 廃炉の計画が長いスパンで計画が組まれている、今までの段階で、今後の課題が何で、今直近でクリアするべきものが何なのかということを知りたくて質問しました。

◆ファシリテーター 「廃炉とは更地にするのか？」と、これはどなたでしょうか。

■参加者 廃炉というのは一体どこまでが廃炉なのか、そもそも何となく見えないかなという、あるいはいろいろな捉え方をしている人がいるのではないかとこのことを書きました。

◆ファシリテーター 直近の課題と先の課題、両方あって、なかなかまとめては答えにくいかもしれませんが、どうでしょうか。

●東京電力 直近の課題としては、ALPS処理水の放出です。6月28日から使用前検査が開始され、設備的には完成し、運用について準備ができていくところとところです。処理水を放出することについて理解いただく活動が課題となっています。

あとは、放射線量が高くて、実際に中を確認できない燃料デブリについては、ロボットの遠隔操作で原子炉格納容器の中を調査して、だんだんと状況が分かり、問題が見えてきて、いろいろな評価をしているところとところです。これらが喫緊の課題になります。



けれども、作業を進めていくと新しいことやわからないことがどんどん増えてきて、今まで考えていたことだけだと足りない、安心してもらいながら作業を進めるためにこれもやらなくてはならない、ということとで先に延びてきたところがあります。

今日ご説明した資料の中にある「燃料デブリ取り出しの本格化がなぜこの時期なのか」という指摘ですが、これはこの時期を定めた時点での目標として定めたものです。この目標に向けて周到な準備を進めているところと、試験的取り出しや本格的な取り出しに向けた工法や取り出し方を今まさに検討しているところとして、2031年より手前に行けるのであれば手前にしたということとで準備を進めているところです。

■参加者 安全を取って一歩ずつ進めるのはわかりますが、延期、延期という報道が大きく伝わってきますので、最初に目標の時期を少し遅めに設定して、予定どおり進んでいます、と聞くくらいは、ほつが信頼されるのではないかなと個人的に思っています。

●東京電力 情報の出し方で工夫するところと、ひとつのアイデアかもしれない。一方で、正直にお伝えするということのもひとつの姿勢だと思いますので、いろいろな方法を検討していきたいと思えます。

◆ファシリテーター 関連してその他にいかがでしょうか。

■参加者 僕は生まれも育ちも福島なので、廃炉のニュースを聞く



■参加者 今ALPS処理水の話がされましたが、それ以外の課題を定期的に発信される場はあるのでしょうか。



●東京電力 なかなか皆様の目に触れないかもしれませんが、政府が定めた中長期ロードマップが廃炉の道しるべなので、けれども、その中長期ロードマップの進捗状況の会見というのを月1度、最終木曜日に実施しています。昨日もALPS処理水について記者からかなりの質問を受けましたが、今日新聞を見てみると、ほとんど記事になっていません。その他のニュースの状況や、少し前に設備の工事が実質上終わったというニュースもあったので、そのような報道になったのかもしれませんが。

◆ファシリテーター 関連して「中長期ロードマップ延期ばかり2031年、本格取り出しの根拠は？」はどなたが書かれたのでしょうか。

■参加者 これまで何回も延期です、延期ですという報道がなされて、やはりどうしても信じられない方が多いのではないかなという印象を持っています。そんな中で2031年と具体的な数字を挙げていただいているのは非常にいいと思うのですが、でも、それが何で2031年なのかという根拠が全く見えてこない、本当に信じていいのかどうか分からないという気がしています。

◆ファシリテーター NDFからいかがでしょうか。

●NDF 燃料デブリ取り出しについて指摘いただいています

たびに、首都圏などの農産物の消費地などのように報じられているのか、あるいはそれに対するケアは今どうやっているのかな、ということをお聞きしたいです。

◆ファシリテーター 直近だと処理水の問題について消費地での発信を強化されているという話もあると思います。東京電力として対応していることなどはあるでしょうか。

●東京電力 農水産物と関係が深いですと、東京電力側での取り組みとして、風評払拭のための組織を作って、スーパーと交渉したり、実際に物産の販売のお手伝いをしたり、あるいは東京電力の社内でも販売をやったりといった取り組みをこの12年続けております。また、福島県産品については、他の電力会社や関係会社にも協力いただいて消費地での情報発信ということに取り組んでいます。

●東京電力 ALPS処理水の関係で風評が起らないようにするためにも、福島県産品の良さ、おいしさ、安全性を知っていただくのが一番と、首都圏でイベントをやらせていただいております。

●NDF 首都圏などでは、昨年末よりALPS処理水の関係で政府が「ALPS処理水の安全性について考えましょう」というCMをやっていました。「安全です」とは言わずに「考えましょう」というメッセージを流していたのは効果があったと思います。

「海外への発信は」というところでは、私が過去にIAEA(国際原子力機関)に勤務していた頃、日本政府がIAEAの年一回のイベントに福島産の桃のジュースやお酒を持ってきて、招待者にその良さをおいしさをアピールする、という取り組みをやっていました。

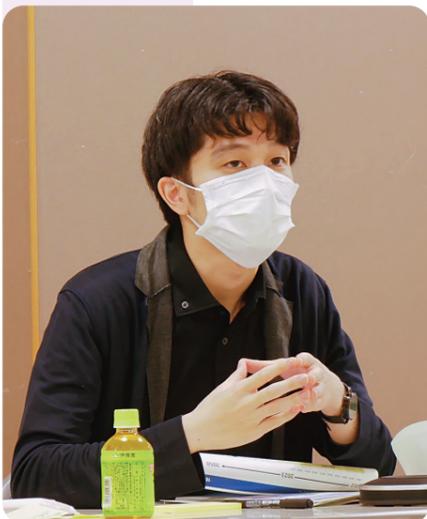
◆ファシリテーター 海外への発信ということで、追加で何かありますか。

■参加者 処理水は安全で、告知濃度比総和1以下の原則で放出しますと発信する中で、海外の一部の方が「ストロンチウムだつてあるじゃないか」といった意見をするニュースも見られます。それに対してトリチウム以外の核種も除いていますよ、と海外にどの程度強く発信できているのかが気になっています。

●東京電力 当社では処理水ポータルサイトで、ALPS処理水を分析した結果や今どれぐらいの処理水などが貯留されているかを公表しており、海外への発信ということで中国語、韓国語、英語での発信も行っております。海外向けということでは、成田空港、羽田空港や関西新空港などでデジタルサイネージを使って海外の方にも伝わるような、ALPS処理水の理解を進める動画を流すなどの活動をしております。

●東京電力 加えて、海外プレスセンター、外国人記者クラブでの記者会見を半年に一度程度開いたり、外務省などの助力を得て各国のメディアを集めたレクチャーの機会をいただいたり、あるいは日本に滞在している大使館の職員の方々に視察に来ていただいたりなどの取り組みを実施しており、先日はパライオの大統領に来ていただきました。

■参加者 私は食農科学研究科に所属しているのですが、農水産物への風評被害について少し興味があります。これまでの対話で、農家や漁業者の方たちとの対話はあったのか、も



◆ファシリテーター 若い世代への情報発信や教育についてはどのように取り組まれているのでしょうか。

●NDF 小学生にいきなり放射線の話は難しいですが、中学生、高校生に対して放射線副読本を配って授業の中で取り上げてもらう取り組みが政府中心で進められています。

●NDF NDFでも毎年「Joshi-kai」という女子高校生・高専生を対象に理工系進学

しあれば、どのような意見やお話があったのか聞かせていただきたいと思っています。

◆ファシリテーター 農業や漁業に従事されている方との対話についてのご質問です。

●NDF 廃炉の対話でいいますと、農畜産物を消費者向けに加えて販売していらっしゃる方にご参加いただいています。

■参加者 ALPS処理水の放出時には風評被害ということがまた起きるのではないかと懸念しており、そこに対してのサポートやケアは必要と思っています。

◆ファシリテーター 「どのように放射線に対して正しい知識を若い世代に教えていくのか」と書かれたのはどなたでしょうか。

■参加者 若い人が放射線に関してどのくらい正しい知識を持っているのかが気になっています。東京電力や放射線に対して良く思っていない方々にとっては受け入れ難いとしても、若者は知識が得られれば柔軟に取り入れて自分で考えていく力はあると思っています。

◆ファシリテーター 若い世代への情報発信や教育についてはどのように取り組まれているのでしょうか。

●NDF 小学生にいきなり放射線の話は難しいですが、中学生、高校生に対して放射線副読本を配って授業の中で取り上げてもらう取り組みが政府中心で進められています。

●NDF NDFでも毎年「Joshi-kai」という女子高校生・高専生を対象に理工系進学追加と聞きますが、追加被ばくがあるのであれば、そこには何かしらのメリットがないといけないのではないかなと思っています。

●東京電力 これから燃料デブリの取り出しが本格化していくときに、その保管のための施設を整備するために用地を確保するという説明になるかと思いますが、これは東京電力側のメリットになります。ご質問の住民にとってのメリットということ言えば、例えば、大熊町あるいは双葉町の町長は、タンクの存在そのものが帰還の妨げになる、という発言を公式なインタビューでされていたことを報道で拝見したことがあります。違う捉え方をしている方もいらっしゃるかもしれませんが、タンクがなくなることで自体がメリットと考えている方もいらっしゃるかなと思っています。

◆ファシリテーター 「処理水が安全ならば東京電力側で東京湾に流してから安全安心だと主張してほしい」というコメントについてはいかがでしょう。

■参加者 処理水は福島県沖での放出が前提になっていると思いますが、100分の1でも1,0000分の1でも良いので、同じ気持ちを感じてほしいということを書きました。

●東京電力 現在タンクにたまっている処理水自体は放射性廃棄物という扱いですので、輸送するとなると、道路の使用許可や自治体への通報といった手続きの他、輸送に係る物理的な問題もあるかと思えます。仮にタンカーで運んで他の海域に放出するということを考えても、今度はロンドン条約に抵触するといった制約がある中での選択肢として、政府は海洋放出という方針を示したのだと認識しています。



と廃炉に興味を持っていただくためのワークショップを国際機関の協力を得て開催しています。また県内高校生を40人程度集めて「学生セッション」というイベントも年一回開催しております。

◆ファシリテーター 次に「なぜ処理水タンクは増やせないのか」についてご説明いただけますか。

■参加者 処理水が今一杯になったから排出と言われていますが、東京電力の敷地外で増やすということはなぜできないのでしょうか。

●NDF 廃炉にはいろいろなリスク要因があって、全体として進めるに当たってひたすら処理水だけに注力するののかということ、配分についてもよく指摘されます。確かに今までタンクを増やしながら対処してきたところもありますが、一方で燃料デブリといったより高いリスク要因への対処を進めず、とにかく処理水の放出を避けるために費用と労力を使い続けるのはどうなのかという指摘もあります。

◆ファシリテーター 関連して「処理水放出によるメリットはどのようなものか？」についてはいかがでしょうか。

■参加者 処理水放出のメリットはあまり語られていないと感じています。放出した際に被ばく線量が自然放射線の10万分の1

きなしで運べるので、少しでも東京湾で放出するといったことも考えるべきではないのか、考えてほしいなという素直なご意見のだと受け止めました。

◆ファシリテーター 「原発内の高レベル放射性廃棄物の行方は？」についてはいかがでしょうか。

■参加者 福島第一から出た高レベル放射性廃棄物は他の廃棄物とはまた別の扱いをされていたと思うので、全く決まっていないうか、もしもありませんが、処分方法など今後どうなっていくのかなと思いました。



●NDF 「指摘のとおり福島第一の燃料デブリなどの取り扱いとは別だということまで、制度設計からちゃんとやっていかなくてはならないのですが、そもそも燃料デブリ自体が今どのような状況なのかよく分からないのが現状です。戦略プランの中で将来の処理処分を見据えた形で性状把握を進めるという考えですが、それも二方向ではなく、反復的に行ったり来たりしながら考えていくという考え方になっていきます。今できているのは処分もガラス固化ではなくて別のやり方しなければいけないということの研究開発も進めており、しばらくはそれを積み重ねていくことになりそうです。

最終処分、それをどこに置くのかということも、燃料デブリの性状を確認し、どれくらいの高レベルになるのかといったことを見極め、地元の皆様とも相談しながら決めていくことになるのだと思うと思っています。

◆ファシリテーター 次に「廃炉に直接かかわる方々はどのような人なのか?」「廃炉を進める人材確保をどう考えているか」というところはいかがでしょう。

■参加者 作業をしている方々というのは東京電力の社員なのか、それとも地元の企業などなのか教えていただけますか。

●東京電力 東京電力社員がメインでやっているものもありますし、協力企業ということで、地元の企業、プラントメーカー、ゼネコンの方とかといったいろいろな方が関わっています。皆さんと年齢の近い方で学生時代に学んだ知識を活かしたいということでも入社された若手の方、地元の方、海外の方を含めて日本全国からいろいろな方が来られています。

◆ファシリテーター 追加で何かありますか。

■参加者 もつ二度原子力発電所をつくるという話もありましたが、廃炉の後、東京電力や関連企業が地域から撤退することがあり得るのを知りたいです。先のことは決まっていなくてもいいかもしれませんが、何かお話しただけだと安心できないなと思います。

●東京電力 廃炉の先に東京電力自身が再び福島で原子力発電ができるかどうかということ、これは非常に難しい話だと思います。30年〜40年続く廃炉という中で地域にどう貢献できるかということも考えたときに、廃炉産業に地元の企業にどのように参加していただけるかがポイントだと思います。

した。

●NDF 廃炉の対話は今日ぐらいの人数のサイズで全ての会をやらせていただいている、濃い議論をしたいという意図があるためです。こういう対話を年7回やった上で今年は双葉町で廃炉国際フォーラムを開催します。会場の関係で地元からご出席いただけるのは100名前後かなと思っています。フォーラムを2日間で開催し、2日目は専門家向けの会合をいわき市で開催し、600人程度の規模で参加いただきたいと思います。確かに興味がある人しか知らない、現在はそういう位置づけですが、地道に続けていきたいと考えております。

●NDF 2日目は専門家向けになりますが、今日ご参加の皆さんは理系の方ですし、技術的なことにも詳しいので、初日はちょっと人数制限もありますけれども、ぜひよろしければ2日目の方にご参加いただければと思います。

◆ファシリテーター そのついでに時間で時間になりました。非常に多くの論点に触れることができませんでしたけれども、まだまだ足りないなといったところもあるかと思えます。是非またこういう対話の機会、リピーターで参加いただくこともありますので、その際はぜひぜひご参加いただければと思います。では、これで終わりたいと思います。ありがとうございました。



■参加者 廃炉産業という言い方をされて、すごく前向きな捉え方ではないなと思いました。ただただ廃炉をして終わりというよりも、廃炉の中で新たな繋がりができたり、新たな雇用が生まれたりというのはすごく良いなと聞いていて思いました。

◆ファシリテーター その他廃炉の対話について「普段どのくらい参加?」今回は少ない方?という質問が出ています。

■参加者 参加者は少ないかなと思っていたのですが、そもそも廃炉に興味を持っている人も多分少ないと思っていて、どこに課題があるのかなというところをお伺いしたいと思いま





◆ファシリテーター 「NDFさんって、何をされている組織ですか?」と付箋に書かれた方がいらっしやいます。まず、この点を理解した上でこの対話を始めていきたいと思っています。

●NDF 大きく2つの仕事があります。今回の事故で損害賠償は累計で10兆円を超えるお支払いになっているのですが、1つ目は、東京電力に損害賠償費用を無利子で融資して、大体40年くらいかけて返済してもらって、つまり賠償がきちんと進むような財源を確保することです。2つ目は、廃炉の推進です。廃炉そのものは東京電力が実施しますが、これを技術的にどのようにどんな段取りで、どういう優先順位で進めていくのかについて、方針を立てて東京電力と調整をして進めていく、そういった仕事をしていきます。

◆ファシリテーター この付箋を書かれた方、今の説明でいかがでしょうか。

■参加者 10兆円というのはなかなかすごい金額だなと思うとともに、東京電力の体力的な問題も出てくるということ、良く理解できました。

◆ファシリテーター 東京電力の皆さんに今日相談員(回答者)として来ていただいています。東京電力の社員さん



の顔が見えにくいという指摘あり、「東京電力の人は本音で語る機会はあるの?」(肩書を捨てて、ユニフォームを脱いで)というコメントが出ています。これはどなたでしょうか。

■参加者 地域の人間からすると、東京電力の人というのは公の場だと謝罪から始まってというのが定着しつつあって、単純にいつまで頭を下げるのかなということもあります。ですが、これからは地域と一緒にやって地域を盛り上げていかなければいけないと思いますので、社員同士あるいは地域の方とでも構いませんので、肩の力を抜いてお話をする機会があるのかなと気になって質問しました。

●東京電力 東京電力の社員の顔が見えづらいという指摘ご意見がありましたけれども、当社の社員は、いろいろな形で地域活動などにも参加しております。今日は制服を着ていますが、地元の対話会などでは私服で参加させてもらっていますので、ケース・バイ・ケースでやらせていただいております。大熊町には東京電力の寮がありまして、約700人が地域の二員として住まわせていただいているので、最近小学校も始まって子供さんたちの姿が見えるのを見てうれしく思っています。地域の夏祭りに参加しないかという声をいただいたり、坂下ダムウォーキングラリーなどにも参加させていただいたりして、日常的な行事にも参加させていただいております。

■参加者 個人的には東京電力の方々の顔はすぐ見えています。昨日もボランティアを企画して、声をかけたらすぐ来てくれて、一緒に参加してくれて、「楽しかったです。ありがとうございました」、「また行きたいです」といった感じで言ってもらっています。私の反省点として、このことを町の人に伝えられていなかったところがあります。

◆ファシリテーター ありがとうございます。お互いに知っていくということが大事なのではないかということですね。少し話題は変わりますが、「廃炉を進めるにあたり最終処分場について」ということを書いていただいています。ご説明いただけますでしょうか。

■参加者 私は福島第二の境界線から300m先に居住しています。震災後に「国有化」という言葉も出ましたし、その中で国が中間貯蔵施設という名目で我々大熊町民というか、地元の方に容認というか、そういう話があって、いろいろな問題があって「地上権」という言葉を出してきたという経緯があります。廃炉を進めるに当たり、最終処分場がなければいつまでもキャスクに入れて保存していくのか、昔からその話が出ています。今後最終処分場についてどのような方向性になるのか、その辺を早く決めてもらって安心できるように配慮してほしいというのが私の考えです。

●NDF 除去土壌、それから福島第二の構内に出てきている固体廃棄物、今後出てくる燃料デブリも全て最終処分場が決まっています。福島第二では燃料体が溶け落ちた形で置きっ放しになっている訳で、今後ずっとこのまま置くと建物も崩れてきますし、化学変化などで流れ出すという恐れもありません。

どのような処分の仕方をすればいいのか、普通の原子力発電所と同じように再処理してガラス固化が必要なのか、といったことを我々がきちんと検討して、最終処分の仕方を数年以内に提示する責任があると思っています。最終処分はごどこか、タイムシ



ングについては社会合意の問題で、技術のことだけでは決められないと思っています。

●東京電力 先ほどいつまで謝罪するのかというお話がありましたが、今のお話を聞くと、本当に事故によってご迷惑をおかけして、今でもご心配いただいているということについてお詫び申し上げます。NDFから説明があったように、最終処分については全く決まっていなくて、行き先が決まっていない以上、私たち東京電力がより安全な形で管理していかなくはないということになります。

廃炉の最終形というお話もよく伺いますが、ごごまでやるのか、更地に近い形まで持っていくのか、何か残していくのかということ

子力発電所に入ったんでも大丈夫だよ」と説明があったのに、たかが津波で原子力発電所がやられたんです。どんなことをしても絶対に安全だということはないと思います。だから、我々が安心して地元に戻ってきて住めるような環境づくりを進めてほしいというのが私らの思いなのです。

■参加者 「ロボットの遠隔操作でデブリを取り出す作業はどのくらい年数を要するのか？」と付箋に書きました。私も大熊町で長年生活をしてきて、大川原地区が避難指示解除になって一番最初に帰ってきました。皆さんとコミュニケーションをとりたいというところでバーベキューなどを開催しました。その際に、東京電力からも来ていただいたのですが、コロナでしばらく中止になりました。今、大熊町にいる町民は東京電力社員より少ないので、沢山参加してもらって大熊町を盛り上げていただければという思いがあります。

●NDF デブリの取り出しについては今検討中でして、つまりすれば1年くらいでおおむねの方向性が固まると思います。幾つか出ている案の中の1つは、遮蔽体を使うことで、ロボットではなく人が4階まで上がって作業する案も残っています。どういう取り出し方をするのかを決めて、それから実際の年数が見えてくるかと思っています。ざっくりとした検討では大体30〜40年で廃炉全体を段落させるというのが国の方針であり、この方針に沿って検討を進めています。

■参加者 30〜40年という期間はすけれども、



とによっても、出てくる廃棄物の量は変わってきます。今私たちがやっているのは、保管管理計画を毎年見直しして、2030年頃までの物量の予測を繰り返し行うことです。燃料デブリのキャスクについては、まだ燃料デブリ自体を取り出していないので、どのような仕様、仕組みにするのかについてはこれからの研究開発することになるかと思っています。使用済燃料プールから取り出した使用済燃料については、乾式キャスクに移していきます。

■参加者 キャスクに入れて保管するという説明ですが、最終処分場が決まらなければ、乾式キャスクに保管して何十年と地上に置くしかないということですよ。ここに我々町民が大熊町に戻るという決心をしたくても踏み込めないところがあるのです。我々は素人なものだから分からないところがいっぱいあるのです。そこら辺を早く決めてほしいというのが私らの思いなのです。

◆ファシリテーター 関連してその他にありますでしょうか。

■参加者 私は、キャスク自体がどこで造られているのかということをお聞きしたいです。

●NDF 現在キャスクを造るメーカーは数社に限られます。東京電力ではなるべく地元で造りたいという思いがあり、福島第二のためのキャスクの製造工場を今の福島第二西門駐車場内に設置するということになりました。キャスクそのものを何十年も地上に置いておいて大丈夫なのだろうかというご懸念があるということですが、絶対はないとしても、少なくとも設計上や製造上において耐えられるような仕様で造っておりますので、安全なものであると考えております。

■参加者 福島第二を建設している頃に「ジャンボジェット機が原

個人的には50年かかるのではと思っています。私たち町民に安心を取り戻していただいて、100%ではなくて120%の思いで携わり、努力していただきたいと思っています。

●NDF 安全第一ではありませんけれども、今のところ何とか30〜40年のうちにこの思いで検討しているところです。とにかく安全第一、受け止めました。

●東京電力 新聞報道などで二つの作業が予定より遅れたというような話を多分皆さんはご覧になっているかと思えます。燃料デブリの場合は、檜葉にロボットアームがあり、2号機からロボットアームで試験的取り出しをすると言っていたのが2021年でしたが、コロナ禍やいろいろな調整事で遅れて今は2023年になっています。ですが、30年〜40年という目標は崩さずに国内外の知恵と技術を頂戴しながら取り組んでいきたいと思っています。

◆ファシリテーター 「そもそも廃炉とはどういう状況の事？」という質問を書いていた方、補足いただけますでしょうか。

■参加者 私は移住者で原子力発電所についての知識が乏しいこともあり、廃炉という状況が頭の中であまりイメージできていないので、具体的にどういう状況なのか一度説明いただきたいということです。

●NDF 「廃炉」と言ったときに、人によってイメージしていることが違ってきます。例えば、敷地がきれいに更地になって町に帰ってくることを想像する方もいますし、あるいは少なくとも原子炉だけはとにかくなくしてほしい

という方もいます。つまり、いろいろなケースがあり得て、廃炉後にどのような姿にするかについては、まだ社会合意に至っておりません。とはいえ、少なくとも30〜40年で地域の皆さんが安心して住んでいただけるような状態に何としてもしなくてはいけないということが我々のミッションだと思っています。その状態は技術面から一方的に決めるのではなく、必ず地元の方々と一緒に決めていきたいと思っています。

●東京電力 廃炉では幾つか大きな作業があり、まずは使用済燃料プールにある使用済燃料を2031年までに全部取り出して安全な状態で管理することを目標にしています。燃料デブリについては、これから試験的な取り出しを行うところですが、キャスクに収めて安全な形で管理します。これを最終的にどこに持つていくのかはまだ決まっています。日々発生している汚染水については、発生量を抑えるということでも取り組んでいます。

◆ファシリテーター 具体的に廃炉の状態、その後についてはまだ決まっていない。そこを地域と一緒に進めていこうという言葉をいただき



ましたが、「私たちができることはありますか？」という率直なご意見を出していこうと思います。ご説明していただけますか。

■参加者 安心して生活できるというのは非常に長い時間がかかるのだろつなという思いがあります。

るかと思いますが、商工会、NPOとして取り組んでいる方々もいらっしゃると思います。幾つかのやり方がある中で、「自身に一番合ったやり方を探っていけるのが良いのではないかなと思います。

■参加者 私は大川原地区で「コミュニティ団体」おおがわら会の副会長をやらせていただいております。「コミュニティ団体はたくさんあります。会で年に5、6回イベントをやるのですが、そういったイベントに東京電力の皆さんが参加して「コミュニケーション」とりながら会話をしていくのもアイデアのひとつではないかなと思います。「おおがわら会は大歓迎です。

●東京電力 ありがとうございます。「おおがわら会」には当社社員も参加させていただいているかと思えます。大熊町では「KUMA・PRE(くまぷれ)」、広野町を拠点に震災以降復興の研究をされている早稲田大学の先生の「F地域塾」といった場が開かれていますので、できるだけ参加させていただいて、いろいろなお声を聞きたいと思っています。

◆ファシリテーター 今日の対話でも始まる前に名刺交換していただいて、交流の接点ができたかと思えますので、何か提案をするためのきっかけになれば良いかなと思います。その他にいかがでしょうか。

■参加者 今日元NHKの解説委員の人が記事を出していましたが、廃炉に当たって処理水の対策は避けて通れないことだと思っております。最近新聞を見ると、やはり補償とか「AEAの意見とか、それが前面に出てしまっていて、いわゆる漁業者とか、あるいは住民とかの対話が後ろのほうに来ているのではないかなと思

した。水俣病でも風評が50年、60年続いている訳で、おそらくこの福島でも廃炉は終わったとしても、風評の影響は続くかもしれないと考えたときに、これを国や東京電力で全部できるかという難しいのではないかなと思います。その観点で地域「コミュニティ」ができることというのは何なのだろうか、というところで問題提起しました。

●NDF 福島第一の跡地を最終的にどのように使っていくかという話と、我々がお示しできる技術的な方向性をきちんと擦り合わせていかなければならないと思っています。その意味で、地域全体の中で福島第一のサイトを将来的にどのような位置づけにしているかのように活用していくという話について、地元としても議論を進めていただき、我々は技術的にはこのような選択肢ができればいいものを勉強していきますので、できれば数年以内ぐらいに将来像と我々の技術的な選択肢を突き合わせながらお話ができるようになりたいなと思っています。

●東京電力 まず廃炉の作業という面では、作業に実際に従事されている作業員の方々の6〜7割程度が福島県の方で、作業を支えていただいております。これからの、廃炉作業にも地元企業に入っていくことが沢山あると思います。小さく仕事を分けていくと、土木工事に限らず、製造業などにも加わっていただける機会ができれば良いなと思っています。たくさんの方に支えられている廃炉だと思っています。

◆ファシリテーター もし住民の方から良いアイデアが出てきた場合、その提案をどこに持っていけばいいのでしょうか。

●NDF 行政レベルで言えば地域の将来を考える市町村にな



います。

●東京電力 A-LPS処理水の海洋放出については、新聞やテレビニュースで毎日のように報道されており、海底トンネルの工事などが終わったタイミングなので、非常に多くなっているかと思えます。2015年に建屋周りの井戸の水、サブドレインという水を海洋放出したときに、「A-LPS処理水については、関係者の理解なくしていかなる処分も行いません」という文書を東京電力として、また国としても出しているのですが、ここを引き合いに「理解がない」ということでお叱りを受けるのも当然だと思います。ですが、政府の方針を受けて、私たちがこういう設備を作って安全に海洋放出をさせていただき、あるいはこれだけのモニタリング地点を設けて海水の安全性については証明させていただくなど、そういった



幾つかの施策の方向性を出してご説明を重ねていきたいと考えております。

■参加者 処理水のことと言つと、メディアが夏頃には放出するだの何だのということをもって報道しているのではないですか。そうすると、我々がいくら東京電力と対話しても、放出ありきの話ではないかと思つてしまいます。要は、対話しますよ、対話しますよと言つていても、100人中100人が理解して「どうですか」というのは絶対あり得ないと思つています。本当に

は、安全だったら、科学的意見とかそういうものをきちんとみんなにどんどん報告して、やらざるを得ないのではないかなと地元の町民として思っています。

安全だったら、科学的意見とかそういうものをきちんとみんなにどんどん報告して、やらざるを得ないのではないかなと地元の町民として思っています。

◆ファシリテーター 残り10分ぐらいの時間になってきましたが、今日参加してみて感じていること、追加の質問などご発言お願いします。

■参加者 私は原子力発電所がある町がどういうまちづくりをするべきかという観点でいろいろ何か活動したくて移住してきた身です。そういった点で皆さんどう思いますかというか、震災前にも原子力発電所がもちろんあって、その当時と同じような町が今もあってはならないと思つていて、だから、どういう町の在り方がいいのか、他の町と同じように発展していくことがこの町のあるべき姿ではないような気がして、その点、皆さんのように思うか教えてください。

■参加者 私はもともと富岡町出身で、震災当時子供で、今富岡町に戻ってきて働いています。私としては別にまちづくりとかあまり求めているものはなくて、ただただこの町に戻つて普通に暮らせばいいなと漠然と考えていたので、今は幸せに暮らせているところなので、将来への希望といったことは特にないですね。

◆ファシリテーター ありがとうございます。今すぐ率直な意見を言っていた方がいいかなと思います。事故後に移住された方、もともと生活してここで生活できればそれでいいと戻つてこられたという方、いろいろな住民の方がいらつしやる中で、これからのまちづくりについてどのようにお考えなのかお答えいただけますでしょうか。

●NDF これはその地域に住んでいらつしやる方々が決めなければならぬことだと思つていますし、国や県が示すものでもないだろうと思つています。個人的には、こつこつ不幸な事故を経験した地域ならではの立ち様と



る活かしながら、これから町ができていけばいいのではないかなと個人的には思っています。

◆ファシリテーター お時間になりましたが、最後これだけは言っておきたいということがあつたら、ぜひいらしたら、お願いします。

■参加者 今、大熊町が本当に帰る人も少なく、周りを見ても空っぽで、家がどんどん壊されて景色がなくなつたというか、そんな感じを受けています。だから新しい人を呼び込むために大熊町では住宅

をあらかじめ建てる予定ですので、東京電力の社員とか国の方とか、こつこつの方が家族を連れて住めるような環境づくりをしてほしいというのが一番私が思つていることです。よろしくお願いします。

■参加者 これからまたこつこつ機会を長く続けていただければうれしいかなと思います。私もここでお約束いたします。小さなまち大川原地区ですけども、元気にします。皆さんと頑張つて元気にいたします。

◆ファシリテーター ありがとうございます。一緒に元気にしましょうと言つていただきました。私たちも力になればということと頑張りたいと思います。ここにいる皆さんで向かっていければと思います。今日来ていただいた皆さんがこんな対話があつただけだと伝えていくことで、また元氣な町への一歩になるかと思つたので、ぜひここで話した内容を周りの方々にも共有いただければと思います。本日はありがとうございます。



●東京電力 震災の前は原子力発電所を中心にした1つの町と村との関わり方があつたと思います。避難することになった町も、徐々に避難が解除されて新しい町ができてきていると思つています。それぞれいろいろな特徴があつて、新しい道に動つてきているのかなと思つています。今、良い意味でスマートフォンができて、小学校もできて、活気が出てきているというこつこつであったり、富岡町、川内村でそれぞれワインのブドウ畑の取り組みが始まつていたりとか、こつこつたこれまでなかった産業の芽が新たにできていくのが震災の事故の原因者となつた社員としてもうれしく思つていますし、こつこつたことを応援していきたいなと思つています。高速道路のインターチェンジもこつこつの町にあつて、それが物流の

利点になるかもしれない、こつこつたものをいろいろ



◆ファシリテーター 「壁」という一語を書かれた方がいらっしやいます。この言葉に込めた思いをお話いただきたいと思えますけれども、ごなただしでしょうか。

■参加者 私は今年春に移住してきた者です。町民の方々や東京電力の皆さんが頑張っている姿などを見てきて、いろいろな感情が入り乱れているなと感じています。移住者として個人的に「壁」のようなものを感じて、どうすればもっと相互理解できるのかなと考えています。

◆ファシリテーター 今日は双葉町出身の東京電力の方が参加されています。なかなかお答えしにくいお立場かと思いますが、今のご発言について一言いかがでしょうか。

●東京電力 私は東京電力社員であり、かつ地元の間人であるという中で、どのように地域の皆様と接していけば良いのかという点で悩むところはあります。ごっちゃって距離を縮めるかという観点からは、福島第一の現場を視察して知っていただくのはもちろんですが、今日のような対話の場で直接お話することが大切ではないかと思っております。

◆ファシリテーター 関連するところで、「理解してもらって」「信頼関係」と書かれた方がいらっしやいます。いかがでしょうか。



■参加者 人と人同士、企業同士の関係など、お互いに信頼関係がなければ廃炉も成り立たないのかなと思います。住民側と東京電力の信頼関係は事故によって一度崩れてしまいましたが、気持ちを新たにしてお互いの信頼を構築していただければと思っております。

◆ファシリテーター ありがとうございます。「公的機関に対して信頼できない」と書かれた方、補足説明いただけますでしょうか。

■参加者 以前住んでいた地域では原発や処理水の放出に関する公的機関からの説明に対して、「危ない」と答えた方が多かったです。私自身は説明を聞いて納得しましたが、その地域で多くの方々が「危ない」と感じたのは、公的機関に対する信頼がないためではないかと感じたことから、「公的機関に対して信頼できない」と書きました。

◆ファシリテーター ご指摘の点についていかがでしょうか。

●東京電力 我々は目の前の廃炉に日々取り組む中で、「社会の中の廃炉」ということを社員が意識して仕事をしていかなければならないのではないかと考えています。今日のような対話で外に出てきて皆様のお話や意見を聞いたりすることが大切ではないかと思っております。

●東京電力 皆様とお話をする際によくご指摘を受けるのは、とにかく福島第一の廃炉作業は何をやっているかがよく分からない、ということだと思います。言葉も難しいし、やっていることもよく分からないということが皆様から信頼されないというところを生んでいるのではないかと反省しています。本当に大丈夫なのか、ということ心配に対して、皆様に寄り添った形で分かりやすく、伝わる言葉で説明するということを我々は心掛ける必要があると思っております。

◆ファシリテーター ありがとうございます。具体的な話で「経営力の向上サポート」と書かれた方がいらっしやいます。ごなただしでしょうか。

■参加者 NDFの説明資料「福島第二廃炉事業を地元の産業に展開」の中で、ステップ2「地元企業のステップアップサポート」として、地元企業のより高度な事業への進出支援、技術力と経営力の向上サポート」という記載があります。技術力のサポートはイメージできるのですが、経営力の向上サポートというのは例えばどの業種で、どういったサポート内容になるのか、具体的にお伺いしたいと思えます。

●東京電力 業種を定めてということではありませんが、福島第一の廃炉事業に参画いただくに当たり、まずは安全や放射線管理といった数多くのルールに対応いただく必要があります。このルールを分かりやすくお伝えする場を設けるといことで、地元の方々が事業への参画についてご検討いただく際の心理的な障壁を低くするよう努めております。

●東京電力 地元企業の皆様の廃炉事業への参画は、ステップ1、2、3の段階で考えております。ステップ1ではまずは参入に必

要なルールをご理解いただいた上で、廃炉の作業をやってみませんかという段階になります。この段階では下請になるかもしれないかもしれませんが、廃炉の作業がどういふものなのかについて、ルールだけでなく、テクニカルなこともご理解いただけたらと思います。その次のステップ2では、教育や人材育成も含めて、元請としてできるだけの仕事力を持っていただくというステータスになると思います。さらにステップ3では企業として成り立つことができ、廃炉産業だけでなく、外に打って出ていけるような技術力を持ち、新規の産業を創出して発展していただくという段階になります。

◆ファシリテーター 関連して「地元企業と東電との関わり」についていかがでしょうか。

■参加者 福島第一の中で仕事をするに当たり、お作法と呼ばれるルールの厳しさが際立っているような気がしてなりません。どうしてもそこがネックになって、入る余地はないという声も多いという事実があることもご理解いただいた上で、福島第一あるいは廃炉産業への入口のご案内について今一度お考えいただければと思います。

●東京電力 福島第一のルールが心理的な壁になっているところは我々としても感じておりますので、地元企業の皆様が不安な部分については当社社員ができる限りサポートしていくことを進め



ており、地元の企業の皆様向けに研修等も開催して分かりやすく説明していく場を設けていきたいと考えております。

●東京電力 2020年に社内地域共生センターという部署を設けました。業務発注元になる各部門が一括発注したほうが会社の仕事としては楽なわけですが、そこに地域共生センターが割り込んでいって、地元企業が参入しやすくなるよう仕事を分解したり、介入したりという仕事をしております。まだまだ地域の皆様の期待に応えられていないかもしれませんが、引き続きこのような取り組みを進めていきたいと考えております。

■参加者 本場にハードルが高いですから、うちはそんな技術力がない、ということもありますので、仕事を本場に細かく砕いて、地元でできるような仕事は地元へ渡していただきたいという思いがあります。よろしくお願ひします。

◆ファシリテーター ありがとうございます。続いて「東電社員の方に移住してほしい」と

書かれたのはごなただでしょうか。  
■参加者 震災前、双葉町では隣近所に多くの東京電力社員がいました。本場に懐かしく思います。町民に戻ってこない中で町外からの移住とか定住ということを進めていくわけですが、でも、まずは東京電力社員に双葉町に住んでほしい、そのぐらいの

気持ちでいてほしいという思いを書きました。

●東京電力 震災前は双葉町内に数多くの社宅とか独身寮がありまして、社員が住ませていただいております。現在、社宅の老朽化が進んでいて、居住できない状況にあります。来年の春ぐらいに少し居住できるような形にする予定ですので、いろいろな環境整備が進んでいく中で、また東京電力社員も少しずつ双葉町内にお世話になっていくような形になっていければと思っております。

◆ファシリテーター もっと広い意味でこの地域に魅力を感じて移住している方に対して「言いたいこと」だと思いますが、「移住希望者に伝える内容」についてはいかがでしょうか。

■参加者 今年の10月から移住定住センターを双葉町で立ち上げる準備を進めています。移住希望者の方がご心配されるのが放射線、線量といったことではないかと考えており、このような質問を受けた時にどのように答えていけばいいのかについてアドバイスをいただければと思います。

◆ファシリテーター 私が研究員として関わっている伝承館でも、案内をする職員も放射線について質問を受けた際に適切に答えられるよう研修を行っています。今のこの質問について東京電力ではいかがでしょうか。

●東京電力 我々は危険と隣り合わせの状態です。廃炉を進める中で、最優先すべきは地域住民の皆様にご迷惑をおかけしないことだと

思っています。つまり、燃料デブリやALPS処理水などを取り扱う中で、放射性物質をとにかく福島第一の敷地の外に出すようなことは絶対しないということを進めております。それを証明するためにも、敷地境界線に放射線モニターを設けて、その結果をしっかりと公表して、少しでも皆様にご安心していただけるように取り組んでおります。  
◆ファシリテーター とはいえ、この対話でも、東京電力は伝えてくるつもりでも伝わっていないのではないかと、いろいろ指摘がよく出てきますが、その点はどうでしょうか。  
●東京電力 おっしゃるとおり、特にご心配の皆様からはインターネットなんか見ないぞとご指摘を受けますので、より多くの層の皆様に対して我々の取り組みについてお伝えしていくために、今回のような対話の場を拓ける、あるいは福島第一にご視察に来ていただくといったことに取り組んでおります。  
◆ファシリテーター 情報発信に関するところでの話にもなってきました。次に「デマ」のウソのない情報についてお話いただけますでしょうか。  
■参加者 仕事の関係で春休み、夏休みになると多くの学生さんが職場に来訪されます。その際に「これって本当なの？」という質問を受けたりすることがあります。それは本当なのか、嘘なのか、良いことなのか、悪いことなのかきちんと伝わっていないところもあると思います。  
◆ファシリテーター 情報がなかなか伝わりにくいし、子供と大人のコミュニケーションもあるし、特に外から来た方は悪意なくデマ



を信じてしまっているといったことがあるか  
と思います。いろいろな立場の人にごう伝え  
るのか、これは様に伝えればいいわけではな  
いので難しいと思います。東京電力ではどの  
ような工夫をされていますか。

●東京電力 とても難しいことだと思ってい  
ます。現場の視察対応を行っていると感じるの  
は、年齢層、住んでいる地域、知識レベルの差  
による違いもありますし、特にSNSが発達  
している中で、ゴマのような情報も真に受け  
ていらつしゃる方も見受けられます。そこを

どうやって解決していくのかというのは永遠の課題なのですが、例  
えばトリチウムを例に挙げると、トリチウムという言葉だけでは  
絶対子供には伝わりません。ですから、確かにトリチウムという物  
質は放射性物質ではあるけれども、エネルギーが低いので紙一枚あ  
れば防げるんだよとか、子供が分かるようなレベルのお話の仕方  
にして伝えていくということにも取り組んでおります。

◆ファシリテーター NDFでも、廃炉国際フォーラムの開催に向  
けて高校生向けのイベントもやっています。そういった若い世代も  
ほとんど震災の記憶がなくなってきたところがあると思いま  
すが、子供や若者世代での理解の醸成は重要かと思えます。その  
辺りはいかがでしょうか。

●NDF NDFでは一般の方向けの廃炉の対話以外に、高校生を  
対象とした廃炉に関するイベントを毎年夏に2回開催しています。  
これから大人になっていく高校生には、廃炉という難しい課題につ



かりますので、その間に津波  
が来る可能性も考慮して、現  
在は防潮堤も造っています。  
防潮堤を越流してくるよう  
な津波もあるかもしれないま  
せんで、建屋では水密化を  
行っています。

●東京電力 廃炉後の土地  
の利用の姿につきましては、  
更地にすべきなどいろいろな  
意見があると承知していま  
すし、皆様との対話の中でも  
福島第一の遺構化といったお  
話も出てきています。廃炉や  
廃棄物の処理について先が  
まだ見通せない部分もあり、  
本当に時間がかかるかもしれ  
ませんが、地域の皆様、国、  
NDFなどのご協力を得て、  
廃炉後の姿がどのような形に  
なるかについても対話してい  
きたいと思っております。

◆ファシリテーター ありが  
とうございます。次に「海洋  
放出」と書かれたのはど



いて知ってもらい、大人たちも悩みなが  
ら取り組んでいるところを見ていただ  
き、できるだけ正確な情報を発信してい  
きたいと考えております。

◆ファシリテーター 書いていただいた  
付箋のうち、技術的な話題が結構残って  
いますが、どなたかがかでしょうか。

■参加者 「地震、津波対策は」と「廃炉  
後の土地の利用」の2枚を書きました。  
これは町民が常に思っていることだ  
と思えます。今廃炉の作業をしていて、燃

料棒を取り出していないところもある中で、また大きな津波が来  
ることを考えると、まだ双葉町には戻れないという町民の声も  
あります。また、廃炉の後に元に戻るのかなという町民の声も  
あるので、この2つを簡単に書きました。今でも事故処理はほとんど  
地元の若者たちがやっているの、やはりきちんと処理してほしい  
と常に思っています。事故になってから福島第一の免震棟に入る  
機会がありました。職員として働いている地元の若者たちが疲  
れて壁に寄りかかっている姿が頭に焼き付いています。ですから、  
きちんと廃炉作業をして、土地もきちんと放射能がないような形  
で残してほしいなという思いです。

●東京電力 原子炉建屋のある床面の高さですと、津波がまた来  
た時に影響がある可能性がありますので、使用済燃料は乾式キャ  
スクに封入し、できるだけ速やかに高台まで持っていくことが最  
優先だと思って取り組んでいます。この作業にはやはり時間がか

なたでしょうか。

■参加者 いろいろな事情があつて言えない部分もたくさんある  
のかなというのが私の推測ではありますが、いつ頃このような形  
になっていきますか、ということをそろそろ明確にさせていただく必  
要があるのかなと思って書きました。

●東京電力 2021年4月に政府が示した方針に沿って今年  
の6月末に設備の設置を完了し、使用前検査に合格したことは当  
社から発信しており、また、IAEAの包括報告書が公表されて、  
バックグラウンド的なところは準備が整っているということはい  
存知かと思えます。そのような状況ですが、理解活動についてはま  
だまだこれからも続けなければいけないと思っております。いずれ  
にしても、放出が決まったらその次の日から放出しましたとい  
うことは絶対にしませんし、皆様に放出する時期をお示した上で  
開始するという流れになるといことはお約束したいと思ってい  
ます。

◆ファシリテーター 「処理水」に関連して、その他いかがでしょ  
うか。

■参加者 「処理水が満杯になるリミット」を書かせていただきま  
した。事故当時、東京電力の協力会社の社員として業務に携わ  
つた者として非常に気になることです。

●東京電力 処理水のタンクが満杯になる時期については、毎年  
度ごとに前年度の雨や地下水の流入などを鑑みたくて改定してい  
ます。2023年度の頭にご報告したところでは、満杯になる時  
期は2024年の2月～6月となっております。

◆ファシリテーター 「トリチウムの危険性」「処理水どのくらい



## 1日目: 地域を知る



1日目は、双葉町、浪江町の施設を見学し、東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故当時の状況と防災の教訓、その後の復興の状況と課題について学びました。

「東日本大震災・原子力災害伝承館」では、地震、津波、原子力災害の複合災害による被害や復興の歩みを伝える資料、証言映像などを見学しました。フィールドワークでは、15mの津波に襲われた当時のまま保存されている請戸小学校、児童らが避難した大平山、福島イノベーション・コースト構想のもと作られた福島水素エネルギー研究フィールドなどの研究施設や双葉町の様子を見学しました。震災当時の状態と復興に向けて動き出している状態が混在する双葉町をバスから眺めながら、「ここに住んでいる人はどんな気持ちなのか」「何か私力になれば」という感想が寄せられました。次に、浪江町で「コミュニティづくりと子育て支援活動をする」なみ」との小林奈保子氏から、浪江町での暮らしと課題について話題提供頂きました。居住人口は震災前の約1割となり、様々な不便があるとしながらも、少子高齢化、医療・保育・福祉人材の不足等日本が抱える問題が凝縮した「課題の最先端地域」として、「無いならつくろ、あるなら活用する」をモットーにした、まちづくりの楽しさや学生もアイデア出しなど地域のためにできることが多くあるということをお話し頂きました。

ホテルでは、マシュマロ・チャレンジでグループメンバーとさらに打ち解けた後、廃炉に関する学生の疑問に対する回答と議論がなされました。その後、1日の振り返りを行いました。「震災被害について聞いたことはあったけど、実際に見てみると違った」「まちづくりについて震災前にまちの状況を戻すのではなく、新しいことを始めることでより良い方向に進むと思う」といった感想が挙げられました。



※2 パスタ、テープ、ひも、マシュマロを使って自立可能なタワーを立てるチームビルディングのためのゲーム



※1 東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域などの産業を回復するため、当該地域の新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト

## 学生セッション ～学生と考える～「未来ワークショップ」

学生セッション～学生と考える～「未来ワークショップ」は、福島県内の高校生・高専生が双葉地域の過去・現在を知り、実現したい地域の未来に近づくために、どのような政策を実施すべきか考える、2日間のプログラムです。

今年は開催2週間前にオンラインで廃炉に関する基本的な情報やプログラム概要などを事前ブリーフィングした後、8月5日(土)、6日(日)に開催され、福島県内の6校15名の高校生と高専生が参加しました。1日目は、双葉地域の施設見学、地域の人との対話を通して地域の現状や課題について学びました。2日目は、地域の人口・産業などの過去・現在の統計データを踏まえて、実現したい未来とはどのような姿か、またその実現のために何をすべきかを考えました。グループワークでは、参加者が実際に見聞きして感じたことを共有しながら、大学生のファシリテーションのもと協力し合って課題に取り組みました。

### プログラム

#### 事前ブリーフィング [2023年7月21日(金) 16:00-17:30オンライン]

- ・プログラム概要・提出課題の説明
- ・フィールドワーク 福島イノベーション・コースト構想 対象施設の捉え方・考え方 (千葉大学国際教養学部副学部長 鈴木雅之教授)
- ・未来ワークショップの概要・ねらい(千葉大学大学院社会科学研究院教授 倉阪秀史教授)
- ・福島第一原子力発電所の廃炉について(NDF 森田深執行役員)
- ・リアルタイムアンケート調査

#### 1日目 [2023年8月5日(土) 双葉町産業交流センター(F-BICC)]

- 11:00 開会、自己紹介、アイスブレイク、昼食
- 12:40 東日本大震災・原子力災害伝承館 見学
- 13:40 フィールドワーク
  - ・震災遺構請戸小学校、大平山霊園、棚塩産業団地(福島水素エネルギー研究フィールド、福島高度集材製造センター、福島ロボットテストフィールド)、双葉駅周辺見学
- 15:50 ホープツーリズム ヒューマンとの対話
  - ・「双葉郡でのくらしーコミュニティ・課題ー」(任意団体なみとも代表 小林奈保子氏)
- 17:30 廃炉についての疑問への回答、チームビルディング、振り返り

#### 2日目 [2022年8月6日(日) 双葉町産業交流センター(F-BICC)]

- 9:10 未来ワークショップ:座学
  - ・「データでみる双葉地方の復興状況」(倉阪秀史教授)
- 11:05 未来ワークショップ:グループワーク
  - ・実現したい未来のための課題を考える
- 13:00 浅野燃糸双葉事業所 見学
- 14:10 政策提言作成・発表:グループワーク
  - ・実現したい未来に向けて「今からどのような政策を行うべきか」政策提言項目を考える
  - ・未来世代からの提言発表・意見交換
- 16:35 修了式



した。教育や産業に関しては、広い土地やロボットフィールドを活かした先端技術に特化した大学の新設、IT先進地との都市交流によって「震災のFUKUSHIMAからITのFUKUSHIMA」を目指すといった、若年層の流入や地域のPRを狙ったアイデアが出されました。また「コミュニティづくりや暮らしやすさ」といった観点からは、上述の大学生による寺子屋や、住民がタクシーを定額で利用できる制度「みんなでオトクに「エコタクシー」といったアイデアが出されました。これらのアイデアに対して参加者からは「新しい学科は日本の人口やエネルギーなど課題に対応している分野だ」と思ったり「IT」でしかできない体験、学べないことを意識するといった思ったりといったコメントが出るなど、積極的な意見交換がなされました。

鈴木雅之教授(千葉大学)からは、これは日本が人口減少していく中で、人口が増えていく特別な地域であり、まちづくりの面白さがあること、政策を考える際は特化と変化両方への対応を考えること、学問は今最新であっても、古くなっていくことも念頭に立案し、思考の型を学ぶこと、変化に対応する重要性について、倉阪教授からは、2050年は皆さんが社会の中心となっている時代、よい未来を実現してほしいと総括頂き、参加者は学生セッションで学生と考える未来ワークショップを修了しました。

参加者の皆さんには、この2日間を通して学んだことや感じたことをご家族、ご友人にお話しいただくことも、このプログラムで得られた交流や経験を、ご自身や故郷の将来を考える上でお役立ていただけるよう願っております。



次に、未来を担う立場から将来、双葉地域、浜通り、福島県をどのような地域にしていけるかを各分野について考え、グループでまとめた。その後、他グループの結果を確認し、自分達に足りない視点を取り込みました。さらにその未来像を実現するため、今からどのような政策を実施すべきかをグループで議論し、政策提言として整理しました。



2日目は、自分達が未来のリーダーになったと仮定して、望ましい2050年の双葉地域の姿実現のために、今から実施すべき政策を考える、「未来ワークショップ」を行いました。また今年4月にオープンした浅野燃系双葉事業所を見学し、工場進出の経緯や地域への想いについて、話を聞きました。

ワークショップでは、はじめに倉阪教授(千葉大学)から人口・産業構造・保育・教育・医療・介護・土地利用・農業・再生可能エネルギー・森林整備・温暖化リスク・災害リスクの震災前と現在の統計データの比較とAIなど技術進歩の可能性についてレクチャーを受け、参加者はそれに対して感じたことをグループ内で共有しました。

各グループがまとめた政策項目の中で、参加者とスタッフがそれぞれ魅力的と感じるものに「いいねシール」を貼る投票が行われ、最後に各グループから支持を集めた政策及びグループ一押し政策について発表を行いました。



# 廃炉について 知りたいこと

水素爆発には時間差があったのはなぜか？

他県の人と交流する際、福島出身だと言うと「大変だったね」などと言われるが、他地域の人達は廃炉・原発事故に関して現在どのようなイメージを持っているのか

## 原発事故

原子炉が安全だと知りましたがなぜ東京に作らないのですか

## 原子力発電

## ALPS処理水の放出

ALPS処理水の海洋放出について国際連合原子力委員会等はどうな反応をしているのか

トリチウム水を海洋放出することで起きるデメリット

処理水を流しても漁業関係の仕事に影響はないのか？

汚染水放出について、周辺国からの風評被害にどう対処されますか。

廃炉などでの風評被害に対する対策

風評被害をなくすために最初にするべきことはなんですか

## 風評被害

もしまた津波等が起きた際周囲に放射能汚染される恐れはないのか

原子炉で再び事故が発生する可能性が限りなく低いと書いてありましたがどのくらい低いのか%で教えてください

## 廃炉作業のリスク

すべての帰還困難区域が解除されない大きな要因は何ですか。

## 避難指示の解除

廃炉が完了した後、原発跡を何かに活用（例えば記念資料館のようなもの）する予定はあるのでしょうか

## 廃炉後

高校生である私たちにできること

## 私たち

現在の廃炉の進捗状況、汚染水、汚染土壌について

廃炉を進めることで得られるメリット

福島第一原発から取り出された使用済み核燃料を全て処理するにはどれほどの時間、費用等がかかるのか。

廃炉が進まない原因

5・6号機は今後どのような廃炉作業が予想されるのでしょうか

廃炉に今または今後必要になってくるであろう人材はどのような人材か。

現在の廃炉の作業員たちは、具体的にどんな作業をしているのか

どのような企業や職業の人が関わっているのか。

## 人材

## 廃炉作業

廃炉から取り出した燃料は、共用プールにずっと入れっぱなしなのか

現段階の燃料デブリの取り出し状況とは

使用済燃料プールから回収して共用プールに運搬されると書いてありましたがその後どうなるのですか

燃料デブリを取り出したあと、どのように処理されるのか？

取り出した燃料はどうしているのか、どうする予定なのか

取り出した燃料デブリはどうしているのか、どうする予定なのか

## 使用済燃料・燃料デブリ

※未来ワークショップに参加した生徒が書いたものをそのまま掲載しております。

|                        |   |                                      |
|------------------------|---|--------------------------------------|
| 乗り合い割引                 | タクシーのサブスク化→行政などが不足金を出す→高齢者や遠くの学校に通う人などの生きやすい社会→水素エネルギー等を使えばヨシ | ネットを使って、複数の人が目的地が同じなら、その人たちが予約して乗り合い |
| タクシー(バス)などの定期利用者へのサービス | バスの増便・安くする→移動がしやすい!   | 観光客への支援(県民割のようなもの)                   |

交通

|                       |                       |                         |
|-----------------------|-----------------------|-------------------------|
| スタンプラリーやシール集め等で各所を回る  | サービス：割引券 商品券 何かの詰め合わせ | SNSなどで発信したら、何かサービスを受けれる |
| 地産地消のため、観光客に最初に割引券を配る | 観光客の増加                | SNSで、スタンプラリーやシール集めの条件発信 |

スタンプラリー

|                        |                       |  |   |
|------------------------|-----------------------|--|---|
| 高所作業用ロボットの開発           | AIロボットを活用した事業スタイル     | デジタル系に特化した小・中・高を作る                                   | AIに詳しい・強い大学を新しく作る!                              |
| 人やロボットが町を見回り、危険な所を見つける | AIロボットの普及支援(医療)       | 何かに特化した(スポーツ・機械)中・高を設置して学生を呼びこむ。                     | 広い土地、ロボットフィールド等を活かした大学を建てる                      |
| 病院に診断できるAIを導入する        | 双葉(企業の社員)→海外海外→双葉     | デジタル機器に興味を持ってもらうように、プログラミングを使って機械を動かしてみるなどのイベントを開催する | 交換留学制度(ロボット系)                                   |
| 山奥で行きづらい所に、ドローンではいたつ   | 発信(意見交換、情報共有)→ベンチャー企業 | 交換留学制度(ロボット系)  | ロボット産業・エネルギーインフラ事業をもっと呼び込む→まずは知ってもらう 町によって全国にPR |

先端技術

|                      |                                   |                                    |                       |                        |              |
|----------------------|-----------------------------------|------------------------------------|-----------------------|------------------------|--------------|
| 子供がたくさん集まれる公園を作る     | 子供会を作って、地域の行事(おみこしとか...)をして交流を深める | 地域の子育て世代の親に何をしたいか、意見をインターネットを使って聞く | 双葉で育つ子供は病院でお金を払わなくていい | 「子供食堂」のような子供が集まれる場を増やす | オムツやミルクを支援する |
| 託児所を作って、保護者が休めるようにする | 子育て中の親子が集まれる施設を作る                 | 子育ての相談する場所を作る                      | 子供のいる家庭のみ税金軽減         | 給食を無償化する               | 幼・保、小中高大無償化  |
| 子育て世帯は、子育て組合(?)加入義務  | 情報交換 先輩パパママの知恵を伝授する場を設ける          | 町ぐるみの学童・児童クラブ(お年寄りに手伝ってもらう)        | 産婦人科・小児科の入った病院を増やす    | 留学など、学習の支援制度を作る        | 塾を作る         |

子育て・教育

|                                |                                   |   |
|--------------------------------|-----------------------------------|---|
| 温暖化の対策 CO2減少                   | エネルギーの自給自足                        | ソーラーパネルのリサイクルを積極的にして、地球にやさしい町へ(太陽光発電→リサイクル→発電→...の流れ作り) |
| 達成度に合わせてお金を出す(企業)。(カーボンニュートラル) | カーボンニュートラル達成度コンテスト(各地域の中・高校生)in双葉 | 再生可能エネルギーをPRする資料作成、ネットで公開                               |
| エネルギーを使って、バスなどを走らせる            | 住居にソーラーパネルの設置の補助→電気自動車?           | 電気は2時間以上をつけっぱなしにしてはいけない                                 |
| 地元の水素エネルギーの活用を促す               | 市として発電して電気を発売→得た金でいろいろ行政          | ソーラーパネルをつければ、お金が行政から出る                                  |
| 水素自動車の水素を充てんする場所を設ける           | 水素を使った自動車の購入を義務づける                | 家の屋根にソーラーパネルをつける。(一部を市なので負担する)                          |

温暖化

|     |                               |                 |
|-----|-------------------------------|-----------------|
| 働き方 | 子供のために、残業やオーバーワークをなくす→企業見守り体制 | 企業の女性職員の雇用枠を増やす |
|-----|-------------------------------|-----------------|

ふたば未来ワークショップ 2023.8.6 政策提言のまとめ

●高校生が支持した政策  
●大人が支持した政策(ファシリテータ、スタッフ等)

施設・イベント

|  |   |                              |                        |
|--|---|------------------------------|------------------------|
| 女性を増やすために、美容室・脱毛サロン、服屋をつくる                                   | 家族用のテーマパークをつくる                                  | 子供たちへ、サッカー教室を開く→子供うれしい 空き地活用 | バスツアーなどをし、地域の人々がガイドをする |
| 公園を作る  | 広くて暗い土地を生かして・・・夏の夜空を眺める会を開催! キャンプもできちゃう!        | 空き地で若者から高齢者まで楽しめるようなイベントをする! | ヨガ教室を開く→地域交流、女性うれしい    |
| 春：桜を植える こいのぼり 夏：花火大会 星を見る会 秋：もみじ狩り ハロウィン 冬：星を見る会 キャンプ クリスマス会 | 自然を生かした現在雑草まみれの広い土地を活用して、若者がうれしい&観光にもなるキャンプ場を作る | イベント(BBQ、キャンプ、花火、勉強)         | キャンプ場の整備、空き地の有効利用      |

防災・安全

|   |              |                                   |                        |
|---|--------------|-----------------------------------|------------------------|
| まず、どんな災害が起こるのかを小学校や地域で話し合ってみる。そうしたら、それが起こったときにどう行動をすればいいのか、実際に行動してみる。 | 避難訓練をする。定期月1 | 人通りが少ないところや、空き家が多いところに街灯を最低4〜6個おく | 交番を増やす→安心・安全           |
| ハザードマップ必ず1枚は家の壁に貼る  | 定期的な避難訓練を行う  | 街全体での避難訓練(定期的)                    | 子ども安全の家みたいなシールのところをふやす |

|                                     |                                 |   |
|-------------------------------------|---------------------------------|---|
| 居住者への支援                             | 生活に困らない店を大学の周りに固める              | 施設を作って企業に提供→電気代無料とか支援金とかつけて作るにプラスで廃校になった学校が施設をリニューアルしたり |
| 双葉で就職すると、給料が保障される制度                 | 起業支援をする                         | 企業か個人に対して説明会 福島市、仙台市等                                   |
| 空き家をリフォームして新しく移住してきた人の仮拠点? すまいとして渡す | 移住してきた人が暮らしやすい地区にする(ex)イノシシ・虫とか | 新しく双葉で農業を始める人に支援金を出す                                    |
| ある程度の土地を町によって確保・売り出し→呼び込む企業など       | 使う予定のない土地を市が買い取って使いたい人・企業に安く売る  | 生活が安定してくるまで、役場の人が相談役になる。→移住してきてくれた人への手厚いサポートをする。        |
| 避難した人達が帰ってくるきっかけや環境を整える             | 新たに企業などに補助金→福島に本社を置く場合が増やすなど?   |   |

医療・介護

生業

発信

転入促進

つながり

行政

|                         |                   |                          |
|-------------------------|-------------------|--------------------------|
| 資格を持つ人の団体を作る→絶対対入       | 隣組には絶対参加          | 高校生以下は、子供会、育成会への加入義務     |
| 町のHPや、回覧板・掲示板で人口増加を知らせる | 双葉の観光大使(有名人・地域の人) | 地図看板を作る(危険地域、観光場所、住宅地など) |

|  |                                     |                              |
|--|-------------------------------------|------------------------------|
| 双葉地区やその周りの地域、そこで取れた食品の安全性をSNSなどを利用し伝えていく | フクシマの食べ物めっちゃ美味しそうに食べるCMを作って風評被害をへらす | 紹介動画で作物を実際に検査している様子を写す       |
| 大学生ボランティアを集めて寺子屋みたいなものを政府が作って、その情報を発信する。 | 政府が情報発信の相互を見守る。しっかり伝わっているか見る。       | 体験ワークショップを開いて、地元の伝統を伝える      |
| 地元の高校生や、ボランティアの人が原発の行事を開催する              | 学校で震災や事故の事だけでなく、原発についての教育をする        | 他県の人と交流して原発について丁寧に説明する機会をつくる |
| 高校・大学で公演する                               | 自治体が老人のもとへ訪ねて、避難指示等を教えることを、仕事の1つとする | 一軒一軒 広報誌等を配布(できれば直接)         |
| 情報交換のための掲示板設置→フリーに書きこみ                   | SNSなどで発信する(まちづくり)                   | 原発の講演会などを様々な地域・県でやる          |

|                                     |                      |
|-------------------------------------|----------------------|
| 行政は、住民のオンライン診療のために、タブレットネットワーク体制の完備 | 双葉の予算をイベントのための枠を確保する |
|-------------------------------------|----------------------|

# 国際メンタリングワークショップ Joshikai in Fukushima 2023



2023年7月29日(土)、30日(日)、将来の進路を考える時期にある女子高校生の皆さんに、国内外の理工系女性研究者・技術者等(メンター)との交流を通じて、科学・工学への興味、関連する社会課題への関心を高めるために「国際メンタリングワークショップ Joshikai in Fukushima 2023」を富岡文化交流センター「学びの森」(福島県双葉郡)にて開催いたしました。

当日は福島県内より23名、県外より14名そしてルーミアより9名の女子高校生が参加し、国内外9名の共同議長やメンターの講演、グループディスカッション、若手女性研究者によるポスターセッションというプログラムを通じて、将来自身が活躍するイメージを描いていただきました。

メンター講演では、それぞれの研究者・技術者に仕事内容や家族のこと、今のキャリアに至った経緯などお話いただきました。ポスターセッションでは、9つの機関や大学より女性研究者にお集まりいただき、現在行っている研究発表をしていただくのと同時に、現在のライフスタイルや進路選択の際に悩んだことなど参加者からの質問に答えながら交流を図っていただきました。メンター講演やポスターセッションで学んだことを元に、8つのグループに分かれてグループディスカッションを行い、2日目に行うプレゼンテーションに向けての準備を行いました。

プレゼンテーションでは、この2日間を通じてインスピレーションを受けた言葉を発表するグループ、自分の目標・挑戦したいことを宣言するグループ、福島第一原子力発電所で起きた事故の報道に関して寸劇で表現するグループ、英語で発表するグループなど様々でした。



グループディスカッション以外にも、福島の実状についてのレクチャーや福島をはじめ東北の復興を実現するための科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献するために設立された福島国際研究教育機関の山崎理事長より未来のリーダーとなるための講演をいただきました。さらに生徒だけでなく引率された先生を対象にしたセッションも開催し、なぜ理系には女性が少ないかの現状把握をした上で、教育の場でのようなことができるのか、問題点や解決方法などディスカッションを行いました。

参加された女子高校生からは、理系と言ってもさまざまな道があり将来の選択肢が増えた、やりたいことが明確になった、将来は国際機関で働きたい、など多くの声が聞かれ、参加者それぞれに多くの学びがあったようです。





## 終わりに

東日本大震災・原子力災害伝承館がまだ「アーカイブ拠点施設」という仮の名称で呼ばれ、具体的にその施設をいかなるものにするのか、と検討する段階にあった時は福島県庁が行うその企画会議に参加していました。当時は、避難指示解除の見通しもたっていない、交通アクセスにも様々な制限があるところにそのような施設をつくったところで誰が来るんだ、という感覚が大前提としてありました。それでも、最も復興のスタートから遠い位置にあった双葉町にその施設をつくることには意義があるに違いない、と、活発に意見が飛び交っていました。

当時は、「放射線を気にして子ども・若者は来ないのではないか」という見方もありました。福島の観光業にとって重要な修学旅行などの学校教育旅行の来訪者は、2011年以降、それ以前に比べて大きく減ったままでした。学校、保護者の中にある、福島を回避する傾向は長く続いていました。実際に東日本大震災・原子力災害伝承館の建設が始まる際にこの地に来ましたが、まだ被災した建物が目立つ以外にはまわりには何も無い場所です。やはり、色々と無理があるのではないかと思っただけでした。

しかし、その懸念は杞憂でした。2020年夏、実際に東日本大震災・原子力災害伝承館がオープンすると、全国から中高生、大学生が訪問するようになり、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の蔓延の中でも、当初の想定以上の来館者数を記録していきました。この地に「学びの価値がある」と感じる人が潜在的に多くいることが明らかになりました。

今回、福島第一廃炉国際フォーラムが行われる双葉町には、様々な可能性が眠っています。廃炉をはじめとする様々な問題と隣接する地域だからこそ生まれるその可能性を、意識しながら、様々な意見が交わされることが未来を切り拓いていくきっかけ。

総合プロデューサー・開沼 博

### 今日のフォーラムは、

**「福島第一原発廃炉や周辺地域についての正確な事実の共有をする」「地元、地元の幸せな未来を考える場」です。**

**「全ての問題に答える場」ではありません。**

長いようで短い、時間が限られた場です。住民が廃炉主体に直接納得行くまで質疑応答ができる貴重な時間を有効に使うために、論点を「福島第一原発の廃炉」とそれに向き合う人の生活」に絞ります。

**「全ての地元住民の全ての思いに答える場」でもありません。**

そもそも「地元」という言葉自体曖昧です。地元の状況、住民の立場は時間の経過の中で、細分化し続けています。その中で、まずは避難指示等過酷な被害があったこの地域で、ここに様々な形で関わる方々の声を聞くところから始めようというのがこのフォーラムの位置づけです。

**「11回にわたる場」でもありません。**

地元の多様な言葉を拾い上げていくにはこの場だけでは足りない。人の気持ちは移ろい続ける。来年以降もこの地元向けフォーラムを継続していく予定です。言い足りないことや拾えてない声もあって当然です。「もっと言いたい、聞きたい」という方、ぜひ、今日以降も続くこのフォーラムへのご参加、ご協力をお願いします。

**要望を伝えて意思決定を迫る「陳情の場」や「吊り上げの場」でもありません。**

目的は「正確な事実の共有」を通して、「住民と地域の幸せな未来を描く」準備をすることにあります。「何が分からないか分からない」「問題を「そうだったのか」と納得できるものに変え、同時に、そもそも「なぜ私たちは廃炉について考えるべきなのか」といった根本的な問いへの答えも問い続けていきます。

**最先端の専門性を徹底的に追求することだけが目的の場ではありません。**

今日のフォーラムは、最先端の専門性を徹底的に追求する場ではありません。あくまで住民の立場にたって廃炉や地域の未来を考える場です。より専門的なことを知りたい方は明日いわき市で開催されるDAY2はじめ、実務家・専門家向けの情報発信の場をご利用ください。

# ぼいす ふろむ ふくしま 2023

2023年8月27日 発行

監修：開沼 博

協力：葛西優香、倉阪秀史、鈴木雅之

第7回 福島第一廃炉国際フォーラム

編集：日本エヌ・ユー・エス株式会社 本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25  
福島事業所 〒970-8026 福島県いわき市平字大町20-8

デザイン：株式会社フォレスト 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-5-13

グラフィック：長谷川 (キャシー) 久三子

漫画：竜田一人

## 『ぼいすふるむふくしま』について

本冊子『ぼいすふるむふくしま』は、原子力損害賠償・廃炉等支援機構から依頼を受け、「第7回福島第一廃炉国際フォーラム」のヒアリング活動プロデューサーを務める開沼博が、本冊子で紹介されている廃炉の対話の継続的な開催を経て編集しました。